HAND BALL

10月のハンドボール

CALENDAR

2日(日)▽第32回国民体育大会総合開会式（青森市）▽関西学生秋季リーグ男子1部第3日、近大×大経大、阪大×京都産大、関大×大阪体大（12時30分・関大体育館）▽同女子1部第2日　武庫川女×大教大京都教大×大阪体大（11時15分・武庫川大）

3日(月)▽第32回国体第2日。開始式（8時30分）、成年男子、同女子、少年男子、同女子各1回戦（10時・青森県野辺地町）

4日(火)▽第32回国体第3日。成年女子、少年男子、同女子各準々決勝、成年男子2回戦（9時青森県野辺地町）

5日(水)▽第32回国体第4日。成年女子、少年男子、同女子各準決勝、成年男子3回戦及び準々決勝（9時・青森県野辺地町）▽関東学生秋季リーグ男女1部第4日。早稲田×慶応、日大×国士館、(女)日体×日女体②、東女体×学芸②（男=18時、女13時・駒沢体育館）

6日(木)▽第32回国体第5日。成年女子、少年男子、同女子各3位決定戦及び決勝、成年男子準決勝（10時・青森県野辺地町）

7日(金)▽第32回国体最終日。成年男子3位決定戦及び決勝（9時・青森県野辺地町）▽関東学生秋季リーグ男女1部第5日。筑波×法政、中央×日体、(女)学芸×日女体①、東女体×筑波①（男=18時、女=13時・駒沢屋内球技場）

8日(土)▽関東学生秋季リーグ男女1部第6日。早×法、筑×慶中×国、日×体、(女)学芸×日女体②、東女体×筑波②（男=15時30分、女=11時55分・駒沢尾内球技場）▽東海学生秋季リーグ第1日

9日(日)▽第2回日本リーグ後期開幕=3会場8試合。(女)日立栃木×大和銀行（12時30分・函館市民体育館）(女)日本ビクター×大崎電気（13時45分・函館）本田技研鈴鹿×三景（15時・函館）大崎電気×日新製鋼（13時・秋田県立体育館）(女)立石電機×東京重機（14時20分・秋田）湧永薬品×三菱レイヨン大竹（15時30分・秋田）(女)ブラザー工業×ジャスコ（13時・宮城スポーツセンター）大同特殊鋼×大阪イーグルス（14時30分・宮城）▽関西学生秋季リーグ男子1部第4日、女子1部第3日、大阪体大×同志社、阪大×関大、高産大×大経大、(女)大阪体大×大阪教大、京都教大×成蹊（男=12時30分、女=11時15分・大阪府大体育館）▽東海学生秋季リーグ第2日

10日(月)▽全日本男子、世界選手権アジア予選出発（羽田空港）▽東海学生秋季リーグ第3日▽関西学生秋季リーグ男子1部第5日、大阪経大×関大、大阪体大×阪大、同志社×近大（12時30分・京大）

12日(水)▽世界選手権Aグループアジア地域予選開幕（台湾台北市。日本の日程=13日対サウジアラビア①、14日対台湾①、17日対サウジアラビア②、18日対台湾②）

15日(土)▽関東学生秋季リーグ男女1部第7日。体×慶、法×国中×早、日×筑、(女)筑波×学芸①、日体×東女体①（男=14時15分、女=11時55分・駒沢屋内球技場）▽北信越学生秋季リーグ第1日（福井大）

16日(日)▽関西学生秋季リーグ男子1部第6日、京都産大×同志社、大阪体大×大阪経大（10時・同志社大）、阪大×近大(16時15分・阪大）▽女子1部第4日武庫川女×成蹊、大阪教大×京都教大（13時45分・阪大または11時15分・武庫川女大）▽北信越学生秋季リーグ最終日（福井大）

18日(火)▽関東学生秋季リーグ女子1部第8日。筑波×学芸②、日体×東女体②（13時・駒沢体育館）▽東海学生秋季リーグ第4日

19日(水)▽東海学生秋季リーグ第5日

20日(木)▽東海学生秋季リーグ最終日

21日(金)▽関東学生秋季リーグ男子1部第8日、女子1部第9日慶×国、体×法、早×日、中×筑波、(女)東女体×日女体①、日体×筑波①（男=15時30分、女=13時・駒沢体育館）▽北海道学生秋季リーグ第1日

22日(土)▽日本リーグ後期第2週第1日=2会場5試合。(女)ジャスコ×大和銀行（14時・宮崎県体育館）湧永薬品×日新製鋼（15時30分・宮崎）(女)東京重機×大崎電気（14時・富山高岡市体育館）大同特殊鋼×三菱レ大竹（15時10分・高岡）(女)日本ビクター×ブラザー工業（16時30分・高岡）▽関東学生秋季リーグ男女1部最終日。体×国、慶×法、中×日、早×筑、(女)東女体×日女体②、日体×筑波②（男子=11時55分、女子=9時25分・駒沢体育館）▽東北学生秋季リーグ第1日（盛岡）▽北海道学生秋季リーグ第2日

23日(日)▽日本リーグ後期第2週第2日=1会場2試合。(女)立石電機×大和銀行（13時・都城市民体育館）本田技研鈴鹿×日新製鋼（14時30分・都城）▽関西学生秋季リーグ最終日関大×近大、同志社×大阪経大京都産大、(女)成蹊×大阪教大武庫川女×大阪体大（男=13時45分、女=15時・大阪府立大体育館）▽北海道学生秋季リーグ最終日▽東北学生秋季リーグ第2日（盛岡）

24日(月)▽東北学生秋季リーグ最終日（盛岡）

29日(土)▽中四国学生秋季リーグ第1日（松山）

30日(日)▽日本リーグ第3週=1会場3試合。(女)日本ビクター×大和銀行（13時10分・栃木県体育館）(女)東京重機×日立栃木（14時20分・栃木）大崎電気×三景（15時30分・栃木）▽中四国学生秋季リーグ第2日（松山）

新・全日本 アジア予選（世界選手権）で船出

台北でサウジアラビア、台湾と対戦

モスクワ目指す新ナショナルチームの船出ともいうべき、第9回世界選手権（Aグループ）アジア地域予選に出場するメンバーが決まった——日本協会は、9月10日東京で開いた常務理事会で、強化委員会提案の代表メンバーを一部修正のうえ、別掲のように承認した。

強化委の原案では、役員3名、選手14名であったが、常務理事会では選手14名のうち12名を承認、他2名は、新設の「滞同強化選手」～本誌5頁参照～として参加させることを条件にした。団長として男子強化部長・幸田末之理事（日体大出）を派遣することも決まった。

なお、決定の遅れていた同予選は、IHF（国際ハンドボール連盟）から、9月2日付文書で「日本、サウジアラビア、台湾の3カ国2回総当りにより、10月12日から18日まで台湾（台北市）で行う」ことが通達された。

これまでの実績から、日本の代表権獲得は、ほぼ間違いない。

日本代表チームは、9月19日から栃木県大平町で強化合宿、10月10日午後5時10分羽田空港発のCX501便で台湾に向かう予定。

世界選手権アジア予選 日本代表チーム

▽団　長　幸田　末之（43才）日本協会理事
▽監　督　竹野　奉昭（41）　日本協会強化委員
▽コーチ　東　　嘉伸（40）　日本協会強化委員
▽コーチ　本田　　洋（30）　日本協会強化委員
▽選手

	氏名	年令	所属	身長	出場数=得点
・GK	福井　秀人	24才	湧永薬品	180cm	初出場
	柴田　正章	23	本田技研鈴鹿	187	⑲=0
・FP	中井　武三	28	大同特殊鋼	181	㊻=112
	花輪　博	26	大同特殊鋼	180	㊱=54
	柳川　実	23	大同特殊鋼	176	⑱=64
	蒲生　晴明	22	大同特殊鋼	194	㊳=86
	中本　満明	22	大同特殊鋼	184	⑥=4
	穂積　豊彦	24	湧永薬品	180	⑭=20
	津川　昭	24	湧永薬品	180	①=0
	佐藤　要二	26	本田技研鈴鹿	181	㊴=163
	斉藤　幸司	23	大崎電気	175	⑥=16
	生駒　靖夫	21	京都産大4年	184	初出場
	※池上　孝司	21	日体大4年	185	初出場
	※志賀　良弘	21	大阪体大3年	188	初出場

・右欄○内数字は公式国際試合出場数
・＝右の数字は公式国際試合通算得点
※印の2選手は「滞同強化選手」

焦点ともいうべき新鋭群は、前回（昭49）代表の柳川実（大同特殊鋼）、アジア選手権（昭52）優勝メンバーの斉藤（大崎電気）、中本（大同特殊鋼）が、実績を買われて加わり、本田（大阪イーグルス）のコーチ転出から手うすとなったGKには、キャリアのある福井（湧永薬品）が社会人3年目で栄光のチャンスをつかんだ。

大型化を目指すFP陣は、「激しいポジション争い」（竹野監督）の末、津川（湧永薬品）、生駒（京都産大）が決まった。FPの平均身長は182・3cm、（モントリオール代表は180cm）。

団長に幸田男子強化部長

強化委の原案では、このほか志賀（大阪体大）、池ノ上（日体大）の両新鋭も加えられていたが、常務理事会は、モントリオールオリンピック前からの〝少数精鋭主義〟を引き続き守るとして、12名派遣の線を強調した。強化委側は、若手、新進の多いナショナルメンバーに、キャリアを積ませる機会がないとして、14名の派遣を強く要望、結局、荒川理事長の提案による「滞同強化選手」～5頁参照～制度の新設を承認して、志賀、池ノ上両選手をその最初の適用者とすることでまとまった。

役員は、6月発表の竹野監督、東、本田コーチで問題なかった。

オリンピック代表は6名

代表チームは、6月に発表された新ナショナルチーム18名（GK4、FP14＝本誌154号参照）のなかから7、8月二回の強化合宿の経過をみてリストアップされた。

若返り構想を打ち出したあとだけに、今回の発表は内外から注目を集めていたが、新チームの柱となるべきモントリオールオリンピック代表・中井、蒲生、花輪（いずれも大同特殊鋼）、佐藤、GK柴田（ともに本田技研鈴鹿）、穂積（湧永薬品）の6選手は揃って健在、体調をくずしている佐々木（三景）だけが、〝辞退〟のかたちで今回は除かれている。

団長は、同行視察を希望していた幸田男子強化部長を正式メンバーとして推せん、全スタッフが決まった。

予選通過の場合、本大会の代表は11月中旬改めて選衡される。

レフェリーはスイスペア

ところで、世界選手権(男子)のアジア予選が行われるのは2回目

前回(昭49)は、イスラエルと日本がテルアビブで対戦、日本が代表権を手にしている。

今回は、当初クウェートもエントリー、4カ国のトーナメント（ナックアウト・システム）で行われる予定だったが、クウェートの棄権から、3カ国リーグとなり、開催地の決定に手まどったが（＝本誌前号既報）、9月はじめ、正式に別掲のようなスケジュールが決まり、IHFから通知された。

レフェリーはハンス・M・ケスラー、O・メイヤーのスイスペアで、IHF公式技術委代表としてカール・E・ワング競技委員長（ノルウエー）が派遣されてくる。3氏は予選後、来日の予定。

台湾で、このような大会が開かれるのは、昨春3月のモントリオール・オリンピック男子アジア予選について2度目。

一部にいぜんサウジアラビアの台湾入りを懸念するムキもあるがサウジアラビアは7月台湾での国際バスケットボール大会に代表チームを送っている。

第9回世界選手権アジア予選日程

10月12日(水)台湾―サウジアラビア①
13日(木)日本―サウジアラビア①
14日(金)日本―台湾①
16日(日)サウジアラビア―台湾②
17日(月)サウジアラビア―日本②
18日(火)台湾―日本②

会場：台北市スポーツホール

日本の優勝、間違いなし

対戦するサウジアラビアと台湾の実力については、よほどのことがない限り、日本の優勝（代表権獲得）とみていい。

サウジアラビアとは、今春4月の第1回アジア選手権（クウェート、屋外コート）で対戦、27―13台湾とは、モントリオール予選で顔を合わせ40―13、42―16と連勝している。

サウジアラビアはアジア選手権で活躍したフアド・ハッサン・シベイをエースに、攻撃の主力はアル・シュマリ、T・H・ハシム、A・H・カルバン、T・T・アブドーラらとみられる。

台湾は、モントリオール予選では平均年令21・7才という若いメンバーで臨んできていた。

両国のその後の伸びを最大限に見つもる一方、日本の若返りによるハンデを考えても、日本が不覚をとることはあるまい。

東コーチは『敵は身内の〝油断〟だけ。両国との対戦が、比較的最近のため、不安にかられる要素が少ない。

組し易いと思うことが落し穴になるし、少くとも前の対戦のスコアを上廻ることを課題にして、緊張した試合をしたい』という。

サウジアラビアにしても、台湾にしても、目標は一日も早く日本のレベルに追いつくことだろうから、勝負を度外視、捨て身でぶつかってくるだろう。

日本が6回目（連続）の世界選手権行きばかりに気をとられ、拙戦するようだと、新チームのイメージダウンだ。

のびのびと、モスクワへの門出を飾るよう期待したい。

なお、第9回世界選手権Aグループは来年1月26日から2月5日までデンマークで開かれるが、すでに参加16カ国のうちアジア、アフリカ、アメリカ各大陸代表以外の13カ国～ソ連、ルーマニア、ポーランド、西ドイツ、ユーゴ、ハンガリー、デンマーク、スウェーデン、チェコ、スペイン、東ドイツ、ブルガリア、アイスランド～が決まっており、アジア代表は予選リーグD組でポーランド、スウェーデン、ブルガリアと対戦することも発表されている。

ア大会にハンドボールを クウェート提案

バンコク発のAFP電として9月8日付各紙が伝えるところによると、クウェート・オリンピック委員会が、来年12月バンコクで開かれる第8回アジア競技大会にハンドボールを加えるよう、タイ・オリンピック委員会に要求していることが明きらかとなった。

AGF（アジア競技連盟）は11月10日バンコクで理事会を開き、この問題を協議するという。

同大会の競技種目は、8月18日タイ・オリンピック委によって17競技とデモンストレーション1競技が決定され、ハンドボールははずされていた。

荒川清美・日本協会理事長の話

クウェートはAHF（アジアハンドボール連盟）の会長国として復活要求をしたのだろう。

AGF理事会に出席する日本代表にバックアップを要望する。

「ハンドボール」

52年10月号（第157号）目次

【表紙写真】全日本学生東西対抗男子ゴール前のせりあい。
（9月15日・京都府立体育館）
撮影・柳町和幸

日本協会の動き

□ 新たに「滞同強化選手」制度

日本協会は、9月10日東京で開いた常務理事会で、ナショナルチームの海外遠征の際の選手派遣人数について二時間近い議論を行ない、次のことを決めた。

① 男女とも派遣人数は12名（原則としてGK2、FP10）とする

② このほかに、強化委（ナショナルチーム）の長期的展望に立って、有望な若手、有力な新進を4名以内に限り「滞同強化選手」の名称のもとに派遣することを考慮する。

③ 「滞同強化選手」は、国際大会（世界選手権及び同予選などを含む）のエントリーは、すべて正式手続きをし、試合出場も差し支えないが、国内での発表時は、その旨明きらかにする。

◇

□……フルエントリー（オリンピックは14名、そのほかの国際大会は原則として16名）を強く望む強化サイド、財政面からもなかなか首をタテにふらぬ執行部……。

この対峙は今に始まったことではないが、今回「滞同強化選手」という枠を設けたことで、ようやく両者の主張をまとめこんだ、といっていいだろう。

□……荒川理事長自からの提案で会議後、本誌の質問に対し『ナショナルチーム内の競争がぬるま湯的なものにならぬことを狙った。

基本姿勢はあくまで〝12人で戦う〟ことに置く。

「滞同強化選手」1〜4名は、強化委がいうように、当然、ナショナルチーム内の若手となる。

それも、ただ連れて行くだけではなく、強化サイドに〝育てる〟義務を負わす』と厳しい姿勢を示している。

□……強化サイドは、フルエントリーがストレートに承認されたわけではないため、会議ではかなり議論を白熱させたようだが、一応最大限16名の線が打ち出されたことで、渡辺強化委員長、幸田男子横地女子両強化部長も〝納得〟している。

オリンピック時の派遣人数は、当然のことながら、日本協会の手をはなれ、JOC（日本オリンピック委）によって行なわれる。

□高校男女で千七百

日本協会は、このほど昭和52年度の登録チーム数（5月31日現在）を発表した。

それによると、チーム総数は二四六三で、前年に比べ一〇一増。

特に、高校は男子が本誌既報どおり一、〇三九と初の一千台をマーク、女子も七〇二と伸び、男女合計の前年比は一一九増という数字をマークした。

学生男女、高専(男)も僅かだが伸びを示しているのに比べ、一般は横ばい状態。

なかでも男子は、国体成年の全県参加が打ち出されながらAで減八、Bで減五二を数えたのはショック。Bの落ちこみは、大幅な登録料増額が影響しているようだ。

なお、登録総人口は延べ四一、八一二名で、この内男子は二八、九八三名である。

種別登録チーム数次のとおり。

▽一般＝男子A二六四、同B一五八、女子A＝六七、B二九▽学生＝男子一四七、女子三〇、▽高専（男子のみ）二七、▽高校＝男子一〇三九、女子＝七〇二

□12月10日に40周年記念式

日本協会は9月10日の常務理事会で、今冬12月10日に東京で「日本協会創立40周年記念式」を行うことを正式に決め、功労者に対する表彰内規を次のように発表した。

日本協会の創立は、昭和13年2月2日だが、来年2月は、男子の世界選手権の会期中などから、全日本総合選手権（12月7〜11日・東京体育館）時に繰りあげて行うこととなったもの。

（40周年記念功労者表彰内規）①30周年時の表彰者は除く②日本協会、都道府県協会、全日本学連、全国高体連ハンドボール部の役員を通算して25年以上つとめ、もって組織の整備、ハンドボール普及に多大の功績があったかた③日本協会、都道府県協会、加盟団体の創立以来役員として、多大の功績があり、すでに他界されたかた④表彰者は日本協会40周年記念行事実行委員会で決定する。

なお、功労者表彰のほか日本協会、報道関係、業者（メーカーなど）関係への感謝状の贈呈も予定されている。

□専問紙が間もなく創刊

全国のファン、関係者が永年待望していたハンドボールの専問紙（商業紙）が発行される。

9月10日の常務理事会で明きらかにされたもので、それによると「バスケットボール」紙などを手がけている㈱スポーツイベント（東京都千代田区富士見1の2の32・東京ルーテルセンター内。03―二六四―四〇七一）が、今秋10月25日号を第1号に毎月10、25日の2回、タブロイド判16頁の「ハンドボール」を刊行する。定価は1部150円の予定。

レフェリーコース皆勤者

日本協会審判委員会は、今年度からスタートした「JHAレフェリーコース」の前後期皆勤者57名の氏名を次のように明きらかにした。

小松原忠芳、長野和樹（以上岩手）、菅野肇(秋田)、永井正男、伊藤政美、菅野正行、寺田正男、塩田幸男、石井健二(以上福島)、羽毛田栄吉、福田和夫、湯浅美芳高村好昭(以上神奈川)、大場義幸岩井敏恭、伊藤宏幸、佐々木宏起佐藤誠治、浜野信一、中村恵子（以上栃木)、岡本研二、清水宣雄(以上茨城)、笠井邦彦(山梨)、中一信、奥原強之、得丸光（以上千葉)、金沢裕、石河広安、金村宏吉、佐藤和孝、島田房二、鷹野博明、原信雄、山本浩二、室川正治清水口真澄、平井一半司（以上東京)、木内雄一、小林昌光、春原紘一、岩下道範、高橋重雄（以上長野)、庄司勝三(福井)、荒川悟、大矢隆司(以上愛知)、清水哲哉、秋永昭治、前川和三(以上滋賀)、平沢精朗(京都)、林原範男、重栖悟、奥見幹男、松原紀機（以上鳥取)、東和好、松田哲秀、奥村真人(以上宮崎)、亀沢春寿(鹿児島)

＝関連記事20頁

気分新た，日本リーグ後期開幕へ

湧永のＶ１か，大同の逆転２連覇か，ビッグフォア激突の女子から脱け出るチームはどこか興味満点の話題を折り込んで，第２回日本リーグ後期が10月９日，熱戦の幕をあける。前期終了後から約３カ月，男女各８チームは，前期の手なおしと後期への戦力整備に充分な日時を費やし気分一新，各試合とも好内容の展開となろう。優勝の行方，各チームの抱負をまとめてみた。

井上素行
（日本リーグ運営委員）

前期の順位は、まさに各チームの戦力がはっきり、正直にあらわれたという印象だ。

男子は湧永薬品、大同特殊鋼が他に大きく差をつけ、ついで第二グループに三景、大阪イーグルス本田技研鈴鹿、そして第三グループに大崎電気、日新製鋼、三菱レ大竹と三つのランクに区別され、後期においても、このランクの変動はないだろう。

女子は、二つのグループに分かれ、上位グループにブラザー工業ジャスコ、日本ビクター、立石電機、下位グループに大崎電気、日立栃木、東京重機、大和銀行となり、これまた、まず上下の変動は考えられない。

したがって、優勝争いは、男子は湧永、大同の〝二強〟対決、女子はトップフォアの〝リーグ戦〟。

他チームが後期に備え奮起し、気分を新たにして挑み、前期の成績から飛躍的にアップしても入りこむ余地は、まったくないといってよいのではないだろうか。

湧永やや有利の男子

男子は、湧永やや有利とみたいベテラン木野、高橋が意地をみせ中堅の穂積、津川、GK福井らが安定し、若手の松本、山本、戸田らが伸び伸びとプレーし、力を十分発揮している今のチーム力は抜群である。

しかも、全日本総合決勝での快勝で、大同コンプレックスもすっかりなくなり、王者としての地固めに入ったといえそうだ

一方、大同は藤中が本来のプレーができるかどうかに、優勝がかかっている

大物新人・蒲生が加入し、厚味ができたが、エース藤中不充分では、湧永戦には通用しないだろう。

2点差を追う大同としては射ち合いの乱戦に誘いこみ藤中、蒲生の得点力に活路を見出すべきで、一試合フルに動けるスタミナが必要となり、前期よりどれだけ増強されたかが興味深いところである。

3位は三景で決まりだろう。佐々木を中心に個性豊かなチーム力は、練習条件にやや恵れないとはいえ、実力十分である。

4位以下に変動があるとすれば下位の大崎、日新が、イーグルス本田技を抜くケースで、特に日新は、前期の反省点であろうゲーム運びのミスを無くすれば、大きく勝ちこむことも期待できる。

ハンドボール界の老舗である大崎、本田技が、順位争いに加わっているのは、なんともさびしい。一刻も早く復調し、〝試合に勝てる〟チームに脱皮して、再びタイトル争いが充実したものとなるよう希望したい。

決め手不安だがジャスコか

女子は、上位4チームまったく互角で、予想でき難い。

しいて順位をつけるとすればジ

前期順位と成績

〔男子〕	試	P	勝	分	負	総得点(平均)	総失点(平均)
①湧永薬品（広島）	7	14	7	0	0	163 (23.3)	77 (11.0)
②大同特殊鋼（愛知）	7	12	6	0	1	191 (27.3)	103 (14.7)
③三景（東京）	7	8	4	0	3	136 (19.4)	150 (21.4)
③イーグルス（大阪）	7	8	4	0	3	123 (17.5)	139 (19.9)
⑤本田技研（三重）	7	6	3	0	4	105 (15.0)	120 (17.1)
⑥大崎電気（埼玉）	7	4	2	0	5	111 (15.9)	149 (21.3)
⑥日新製鋼（広島）	7	4	2	0	5	126 (18.0)	150 (21.4)
⑧三菱レ大竹（広島）	7	0	0	0	7	86 (12.3)	153 (21.9)
〔女子〕							
①ブラザー（愛知）	7	12	6	0	1	88 (12.6)	58 (8.3)
①ジャスコ（三重）	7	12	6	0	1	81 (11.6)	47 (6.7)
③ビクター（茨城）	7	10	5	0	2	89 (12.7)	46 (6.6)
③立石電機（熊本）	7	10	5	0	2	81 (11.6)	57 (8.1)
⑤大崎電気（埼玉）	7	6	3	0	4	64 (9.1)	95 (13.6)
⑥日立栃木（栃木）	7	4	2	0	5	66 (9.4)	68 (9.7)
⑦東京重機（東京）	7	2	1	0	6	48 (6.9)	95 (13.6)
⑧大和銀行（大阪）	7	0	0	0	7	47 (6.7)	98 (14.0)

ャスコ、ブラザー、ビクター、立石か。

ジャスコは、松下、河田、鈴木に若田を加え、実力的には充分であるが、〝絶対の決め手〟に欠け優勝まちがいなしといい切れない。

トップで折り返したブラザーは小森のワンマンチームだけに不安がつきまとう。

宮平、中川らが完全にチームの芯になりきってないところで、初優勝に、待ったがかかりそうな気がする。

ビクターは、前期終盤で調子をくずして2連敗を喫した。加藤、小島の二本柱が、強力で安定したプレーをみせれば、逆転優勝の可能性大いにあり、といいたいところだが、好・不調の波が大きいだけに2位に甘んじることになりそうだ。

立石は、徐々に調子をあげてきているが、内容的には、もうひとつ本格的でなく、紀野一人ではまず優勝はムリ。やはり、今年はNO・4に落ち着くのではないか

5位以下は、4強に比べ差がありすぎる。

上位対下位のゲームに、勝敗の興味はほとんどなく、単なる〝消化ゲーム〟になりつつさえある。

初参加の大和は別として、日立大崎、重機の奮起を切望するものだ。

日本ハンドボールリーグ後期日程

10月

9日(日)
22日(土)
23日(日)
30日(日)　本誌1頁「ハンドボールカレンダー」参照

11月

日	会場	時刻	対戦
6日(日)	静岡草薙体育館	14:30	□東京重機—ブラザー工業
		15:40	大崎電気—大阪イーグルス
13日(日)	長野戸倉町体育館	11:00	大同特殊鋼—大崎電気
		12:30	湧永薬品—大阪イーグルス
		14:00	□立石電機—日立栃木
	四日市市体育館	16:00	□ジャスコ—大崎電気
		17:15	本田技研鈴鹿—三菱レ大竹
19日(土)	大阪市中央体育館	15:00	□日立栃木—ジャスコ
		16:10	□ブラザー工業—大和銀行
		17:20	大阪イーグルス—本田技研鈴鹿
	呉市体育館	15:10	三　景—湧永薬品
		16:40	□大崎電気—立石電機
		18:00	日新製鋼—大同特殊鋼
20日(日)	神戸市立中央体育館	13:00	□ブラザー工業—大崎電気
		14:10	大阪イーグルス—日新製鋼
	徳山市民体育館	13:00	□ジャスコ—立石電機
		14:10	三　景—大同特殊鋼
		15:30	湧永薬品—本田技研鈴鹿
23日(祝)	茨城水海道二高体育館	11:00	三菱レ大竹—大崎電気
		12:30	□日本ビクター—東京重機
25日(金)	東京体育館	18:00	日新製鋼—三菱レ大竹
		19:20	大阪イーグルス—三　景
26日(土)	東京体育館	16:00	□東京重機—大和銀行
		17:10	三　景—日新製鋼
	京都府立体育館	15:00	□日本ビクター—ジャスコ
		16:10	湧永薬品—大同特殊鋼
	愛知県体育館	15:00	□日立栃木—大崎電気
		16:10	本田技研鈴鹿—大崎電気
		17:30	□立石電機—ブラザー工業
27日(日)	大阪堺大浜体育館	13:00	□立石電機—日本ビクター
		14:10	三菱レ大竹—大阪イーグルス
	岐阜県民体育館	14:00	□大和銀行—大崎電気
		15:10	大崎電気—湧永薬品
	愛知岡崎体育館	13:00	□ブラザー工業—日立栃木
		14:10	大同特殊鋼—本田技研鈴鹿
		15:30	□ジャスコ—東京重機

・□印は女子

各チームアンケート

後期かく戦う

〔湧永薬品〕前期を首位で折り返すことができ、チーム全体に「自信」が芽生えてきている。

後期も、前期同よう〝点を取られないハンドボール〟を心がけ、オフェンス面にのぞいた雑なプレーが解消されれば、初優勝を狙えると思う。

ミスが少なく効率の高い「パーフェクト・ハンドボール」の理想に近づくよう、前期の好成績に甘えることなく、一戦一戦を大事に戦うつもりである。

〔大同特殊鋼〕若手への切り替え期にあり、これまでのような力強さに欠ける前期だったが、後期はこの欠点を補ない2連覇を目指す。

守備型のチームとして失点を少なく、攻守反転の速い展開をマスターできれば、勝算は充分でてこよう。

新人蒲生、若手の大原、中本の成長がいちぢるしく、〝大同カラー〟に巧く溶けこむものと思う。

前期2位のままに終らぬ大同の不死鳥ぶりを期待して欲しい。

〔三景〕前期3位はまずまずだが内容的にはけして満足すべきものではない。

湧永に12—22、大同に18—27、日新に19—31などは、どのチームにも伯仲した試合を、という目標から程遠かったし、新戦力が、社会人のハンドボールになじんでいなかった点もあった。

後期は鈴木、西窪、中村らが、チームに溶けこみ、攻守ともに厚

味を増した。高いレベルでの試合を展開できると思う。

〔大阪イーグルス〕負け数を少なくし、ベスト4入りが目標。チーム創立以来のモットーである「和をもって燃える」ことに徹して、成し遂げたい。

ともかく、全員、何よりもハンドボールが好き。ハンドボールは我々にとって生涯を生き抜くための〝無二の道具〟でもある。

幸い、前期は三景と同率3位とAクラス入りの足がかりをつかんでおり、いっそうの精進と闘志を誓い合っている。

〔本田技研鈴鹿〕前期は緒戦につまづき、波へ乗りそこねた。

また、切り札・佐藤がマン・ツウ・マンで封じられるケースが多く、後期は「5対5」から得点機をつかむことを工夫している。

守りから攻めへの切り替えも鋭さにかけた。

技術面だけでなく、せりあった時の粘りのなさなど精神面でも課題があったが、その一つ一つを乗りこえて、後期こそ満足のいくゲームをつづけたい。

〔大崎電気〕力と技を兼ね備えた新しいチームカラーを目標にした今シーズンだが、前期は、随所に甘さをのぞかせ、むしろスタート前よりも多くの課題をかかえてしまった。

後期にむけての練習では、選手一人々々が納得のいくまで、心技両面のテーマに挑み、チーム力の向上につとめてきた。

少くとも昨シーズンの成績(4位)は維持できるよう頑張るつもりだ。

〔日新製鋼〕チーム力は一戦ごとに上っていると思うが、安定感に欠け、特にディフェンスの弱さが不本意な成績につながってしまった。

たくましさを盛ったチームカラーを目指し、練習方法、選手管理選手起用、ゲーム展開など、あらゆる面の洗いなおしを行い、心機一転、後期へ臨む。

この成果が実れば、必ずや〝台風の目〟として、後期は一暴れできよう。

〔三菱レイヨン大竹〕若手選手がようやくリーグの雰囲気に慣れ、チーム力——特に得点力は上向いてきているので、前期の成績(7敗)は忘れ、気分を新たにして臨みたい。

開幕前から、ある程度予想はしていたが、改めて上位チームとの力の差を感じているが、一戦でも早く〝1勝〟をあげることと、たとえ敗れても、日本リーグのチームとして恥かしくない試合を行うことも一つの目標である。

〔女・プラザー工業〕現在トップに立っているのは幸運に恵まれたものであり、今後の苦戦は覚悟。

後期は、個人プレーに頼らず、日ごろの練習どおりのコンビネーションプレーと、いっそうスピードのある攻守を発揮できるようにしたい。

前期の好成績で、これまで以上に選手同士の結びつきは強く固いものになっており、前期の成績は一応、頭からはずし、一試合々々全力をつくして戦いたい。

〔女・ジャスコ〕前期は緒戦を落とし、先行きに不安を抱くスタートだったが、どうにか持ちなおすことができた。後期は、開幕と同時に飛び出すよう調整している。タイトルに最短距離とはいうものの、このことは、あまり考えず、後期は後期、一つの失敗も許されないという厳しい気構えで戦う。

若手の伸びと自信が、GK久保松下、河田のオリンピックトリオにかみあえば、おのずと勝機が訪れよう。

飯田(大崎)ら退陣

日本リーグは、9月5日後期のエントリーを〆切り、男女7チームの異動を発表した。

新登録は男子2、女子6選手で女子のホープ・楠石(プラザー工業)が、ヒザの故障全治でカムバックするのが目立つ。

一方、登録取り消しはミュンヘンオリンピック代表など長く全日本メンバーとして活躍した飯田(大崎電気)や佐藤(三景)、蓮見(日本ビクター)、鈴井(日立栃木)らベテランが多く、時の流れを感じさせる。

青森国体にエントリーしている野田(大同特殊鋼)は、前期につづき、リーグには登録されない。

【新登録】▽男子 大崎電気＝FP小松原保彦(早大出、身長176㎝)日新製鋼＝GK筒木大作(呉工高出177)

▽女子 プラザー工業＝FP楠石かずみ(粉河高出、172㎝)、FP比嘉利枝(浦添高出、153㎝)、日立栃木＝FP箕輪美智子(麻生高出、159㎝)、東京重機＝FP宮田通江(三宅高出、154㎝)大和銀行＝FP米山なるみ(笠妙高出、160)、FP米盛育代(川内商工出、153㎝)

【登録抹消】▽男子 大崎電気＝武藤、飯田、三景＝佐藤、石渡、竹村、日新製鋼＝佐野、松木、村川、吉田

▽女子 日本ビクター＝蓮見、プラザー工業＝木下、岡山、日立栃木＝鈴井、大和銀行＝清水、佐藤

（女・日本ビクター）〝走るハンドボール〟を目標にしながら、それが未消化。後期に備えて、再び走ることの練習を徹底的に重ねてきた。

また、加藤と穂積に頼った展開から一歩脱け出し、全員がゴールゲッター、チャンスメーカーであるというバランスのとれたチームカラーを目指している。

若手がチームに慣れてきておりなんとか巻返し、優勝を狙いたい

（女・立石電機）2年目を迎えた日本リーグは、どうやら観客のかたたちの支持も得られ、これまでの勝ち抜き式の各大会とは異った独得のムードが作られつつある。

チーム側にしても、コンディショニングの難しさや、試合前のトレーニングなどいくつかの課題をおぼろげながら〝解決〟し、初の後期は、年間トータルの順位争いも加って、さらに熱気にあふれ充実しよう。〝つねによいゲームを展開する力〟が目標。

（女・大崎電気）主砲・西の負傷がひびいた前期だが、どうやら出場の見通しが立ったのは明かるい材料。厚味のある攻撃ができると思う。

それにディフェンスの充実を図り、ムダな失点をなくするよう重点的に練習した。

少くとも総合力では前期よりアップしている。

上位陣の一角を切り崩し、Aクラス入りをはたすことに全力をつくしたい。

（女・日立栃木）日立の試合ぶりで、後期をいっそうもつれたものにしたい。

前期はいきなり主力の晴山が負傷したのをはじめ、45度のプレイャーに故障がつづき中途半端な試合をつづけてしまった。

この悔いを後期にぶつけようと選手は大いに意気ごんでおり、思い切りのよいバイタリティにあふれるプレーと、競り負けない精神力で試合に臨み、上位陣にひと泡ふかせるつもりだ。

（女・東京重機）スケールが小さくなった、というシーズン前の心配が、そのままに出てしまった前期だが、選手たちの気力は、昨年と変わることなく元気いっぱいでチームワークもよく、後期は一暴れしたい。

上位と下位の差が、はじめからはっきりしすぎていては、リーグそのものの魅力がうすれるわけで前年3位の面目にかけても、今シーズンは、優勝争いに波風をおこすような、試合をつづけたいと思う。

（女・大和銀行）なんとか1勝でも2勝でもあげたい。

前期は〝若さ〟がよい面でも悪い面でも出た。

のびのびとした試合ぶりは、ベンチからみても期待以上のものがあったが、試合運びの未熟さ、個人プレー、チームプレーの未完成は、各チームとの間にだいぶ差があった。

集中力の養成と基礎技術の向上に、与えられた環境と時間をすべてかけ、成果を期する後期である

得点率計算にPT除く

日本リーグは9月17日東京で運営委員会を開き、前期の進行とにらみあわせながら研究を進めていた「得点率」の計算方法について協議、次のようにきめた。後期終了後、前・後期を合わせた男女の「最高得点率」選手を〈得点王〉として表彰、これまでの得点王は〈最多得点選手〉の名称で表彰する。また、来年の第3回リーグは、男子は2回戦制(前・後期)を引きつづき採用するが、女子については、一部から試合数軽減の意見が出されており、今後、検討することとなった。

〈日本リーグ得点王の選考法〉①選考対象者は、全競技での得点の多い順に10位までとする。

②算出にあたっては、シュート数からPT試投数、得点数からPT得点数を除く。

本誌調べによる前期終了時点の得点王選考対象者は次のとおり。

（男子）穂積、松本、木野(湧永)中井、大原、蒲生(大同)、池本、福井(イーグルス)、佐藤(本田)、井手(大崎)、中馬(三景)、徳田、下茂(日新)。

（女子）小森、宮平(ブエ)、松下河田(ジャ)、篠田、紀野(立石)、加藤(日ビ)、大場(大崎)、島田(日立)、増永(大和)。

日本リーグ前期個人得点（PT得点も含む・本誌調べ）

【ブラザー工業】

選手	得点
小森	25
宮平	19
山中	13
岩井	11
植田	11
中川	4
則武	3
宮本	1
川村	1

【ジャスコ】

選手	得点
松下	24
河田	19
鈴木	12
若田	8
林	6
金田	6
辻本	4
平田	1
横山	1

【日本ビクター】

選手	得点
小島	35
加藤	22
穂積	10
蓮見	7
斉藤	7
染谷	3
池田	2
岩城	2
寺村	1

【立石電機】

選手	得点
紀野	31
篠田	14
山下	8
平下	8
桑原	7
池渕	6
林	3
橋ノ口	2
羽立	2

【大崎電気】

選手	得点
大場	19
深堀	14
中村	10
席定	9
陽田	7
工藤	2
西	2
内野	1

【日立栃木】

選手	得点
荒木	17
島田	16
山井	6
晴山	6
吉田	6
小根沢	6
田村	5
山戸	2
大輪	1

【東京重機】

選手	得点
折口	11
細谷	11
横山	10
鈴木	8
古谷	5
寄田	2
宮下	1

【大和銀行】

選手	得点
増永	17
宮本	10
西田	6
岡村	6
富家	4
義川	2
中武	2

【湧永薬品】

選手	得点
穂積	28
山本	26
津川	25
木野	25
松本	25
戸田	22
高橋	8
緒方	2
藤本	1

【大同特殊鋼】

選手	得点
蒲生	51
中井	25
大原	25
藤中	23
花輪	22
柳川実	21
松原	18
中本	4
浦田	2

【三景】

選手	得点
村田	32
中馬	25
佐々木	22
鈴木	18
西窪	16
川島	13
山村	10

【イーグルス】

選手	得点
福井稔	29
池本	26
高橋	22
早川	13
安達	12
河原崎	11
橋本	9
足羽	1

【本田技研】

選手	得点
佐藤	45
田上	27
喜井	10
豊岡	8
矢野	5
勝田	5
西田	2
川上	2
高木	1

【大崎電気】

選手	得点
井手	30
斉藤	25
能波	20
椿原	14
橋本	6
家村	6
佐藤	5
武藤	3
坂口	2

【日新製鋼】

選手	得点
徳田	31
下茂	29
越智	21
大庭	13
脇若	12
関本	9
泉	5
松木	2
吹上	2
村川	1
吉田	1

【三菱レ大竹】

選手	得点
大江	31
善本	13
大林	13
岩本	11
岡村	7
武田	7
沖重	3
田中	1

3日から青森国体

全県編成目立つ成年男子

2冠成るか小松市女高

第32回国民体育大会ハンドボール競技は、10月3日から7日までの5日間、青森県野辺地高校グランドを主会場に4部門80チームが参加して行われる。東北ブロックでの開催は45年の岩手以来。

ことしから、成年男子の部の教員種別がなくなり、ローテーションで1種別に全県参加という新しいシステムが採られている。

各部門の話題と有力チームを探ってみよう。

＜成年男子＞ 初の47都道府県参加。各県代表をみてみると企業チーム8、教員8、自衛隊2、一般(クラブ)18、全県編成11となっている。独立していた昨年までの数字(10チーム)を、むしろ上廻るのではないかとみられた教員が、その線に達しなかったこと、全県編成での出場チームが四分の一近くにもなったことが注目される。

県内の企業、一般、教員からピックアップして全県代表を編成するのは、国体の〝求める姿〟といわれるが、教員種別の解消で、この面が助長されたのは興味深い。

各チームとも、県予選一本大会が結びついたことで、例年以上に意欲的なトレーニングを積んでいるようだが、特に、国体へ初めて代表を送る島根、鳥取、徳島、宮崎の張り切りかたはすごい。

このほか新潟が12年ぶり、山形が7年ぶりに登場する。

優勝争いは、日本リーグ勢単独の愛知、三重、東京、大阪、埼玉広島によって演じられるものとみられ、順当なら愛知×広島の決勝となろうが、三重、東京、大阪も一本勝負に強い。侮れまい。

なお、埼玉・大崎電気は18年（東京3、埼玉15）連続出場、11年連続出場していたAOK栃木は姿をみせていない。

＜成年女子＞ 日本リーグ(前期)上位を占める熊本、愛知、茨城の優勝争い。

熊本の決勝進出は固そうだが、愛知×茨城は予断を許さない。

国体直後に始まる日本リーグ後期へはずみをつけて突入したいのは各チームとも同じ気持ち、準決勝以降はもつれにもつれよう。

とりわけ、愛知・ブラザー工業は、ここで勝てば、リーグ制覇が色濃いものになる。

序盤で好試合が期待されるのは石川×福島、高知×岩手。

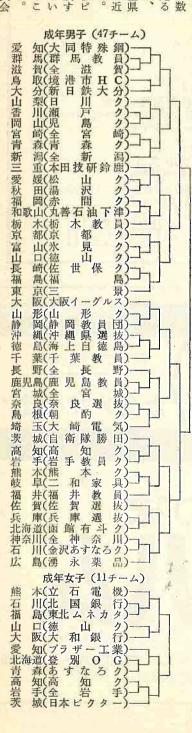
山口が、日本リーグ前期8位の大阪・大和銀行にどう食い下るかも興味。

＜少年男子＞ インターハイ優勝の下関中央工を予選で破っている山口・岩国工高と富山・氷見高の争いか。

しかし、県内の精鋭を集めた岩手、東京、福岡、和歌山らも相当な力をもっており、波乱ぶくみだ。

地元・青森も練習量豊富だし、波にのると、一気の優勝も期待できる。

＜少年女子＞ 石川・小松市女高×広島・山陽女高という夏の決勝再現を予想する声が圧倒的だが、決勝までの道のりは楽といえず、特に石川は熊本、広島は大阪、千葉あたりに注意が必要。ダークホースは福島と青森の東北勢。

＜得点争い＞▽天皇杯は愛知、北海道、青森、福島、石川、熊本、広島ら。皇后杯は熊本、石川、愛知

少年男子（11チーム）

富山（氷見高）
岩手（全岩手）
愛知（県選抜）
愛媛（新居浜工高）
青森（県選抜）
北海道（函館有斗高）
東京（高校選抜）
福島（全福島）
福岡（県高校選抜）
和歌山（県高校選抜）
山口（岩国工高）

少年女子（11チーム）

石川（小松市女高）
福島（全福島）
熊本（熊本選抜）
青森（県選抜）
愛知（愛知選抜）
大阪（高校選抜）
秋田（大曲農高）
千葉（昭和学院高）
北海道（函館女商高）
愛媛（新居浜市商高）
広島（山陽女高）

フリースロー ＜編集委員会論壇＞

地方協会の海外交流に協力の姿勢を

北海道協会の企画した「道高校(男子)選抜チーム」の韓国遠征は7月17日から3日間陸上自衛隊第7師団での合宿練習に始まり、7月20日ソウル入り、21日から3試合(＝本誌31頁参照)24日帰国のスケジュールで行われた。

まず、韓国の高校チームと対戦して感じることは、すばらしい闘志と体力、特に彼らは「日本に負けるな!!」「日本を追い越そう」の気魄で、政治、経済スポーツとあらゆるものの目標が日本であると感じられた。

試合は、最高気温25度の北海道から、36度のソウルとハンデはあったが、すばらしい技術と50分間走り抜くといった相手のスタミナの前に完敗した。

今まで、日韓高校交流で日本代表が気力の点で負けた、または審判がうんぬん……などと聞いてはいたが、技術的にもすばらしいの一言につきた。

アジア地域で日本代表が常勝しているため、さほど隣りの韓国に目を向けていないが、これからは日本のライバルとなってアジア代表権を脅かすことになると思う。

ところで、このたびの遠征計画を実施させるべく折衝するにあたって、単独海外交渉について一言申し添えたい。

北海道協会創立以来、全国大会は二、三回開催されたが、海外に遠征は未だなく、高橋辰夫会長北海道議会議員より一切の経費は会長のポケットマネーで負担し、また、チームの責任の一切も負ろうとの好条件で計画するように話しがあり、協会役員の夢が実現される事になったが、実施にあたり、種々と隘路があった。日本協会の「単独交流規定」がそれである。

単独交流であっても普及発展に懸命に努力している地方協会(日本協会の下部組織)が、経費、責任の一切を負うならば、海外に行って青少年にはげみと技術の向上をと真剣に取り組んでいるのであれば先方外国協会への口添え程度の協力をするのが、普及発展を望む日本協会の態度かと思う。

親を思う子、子を育てる親の関係を作り、コミニュケーションをとって、親子の断絶を無くして行きたいと思う。一考を願う

(石切山稔治)

体力造りに新しい方向を探せ

埼玉県朝霞市に「自衛隊体育学校」という自衛隊の体育指導者を養成する学校があります。

特に優秀な能力を持つ学生は、国際級の選手を目指して、それぞれの勤務と相まって、きびしいトレーニングに励んでおりますが、その中で日本のアマチュアレスリング界をリードするレスリング班の総合的な体力作りを目指すトレーニングにおいて、ハンドボールのゲームが、重要な地位をしめています。

世界に誇る日本レスリング選手のトレーニングのそれも、国際級選手のトレーニングというと、かなり難しいトレーニングを想像しがちでありますが、筆者はこのトレーニングをみて、意外や意外、我々が最も愛するハンドボールが、国際試合に活躍する選手のトレーニングの一助となっていることに驚ろかされたのです。そして体力作りの面からみるハンドボールの持つ価値の大きさを、改めて認識させられました。

上は185㎝、120kgから下は150㎝、48kgまでの選手が入り乱れてのゲームは、楽しいものがあり、また、ある局面におけるスピード、力強さ、勝負へのあくなき執念は、さすが国際級という感じ。

そこで、コーチにハンドボールのもたらす効果について聞いてみました。

「何といっても、レスリングに必要な、スピード、持久力、敏しょう性の要素がゲームの中にふんだんに入っている。それと選手にとって一番大事なケガが少ない。これにつきます」…。

ところで、我々ハンドボール側にとっても、逆にレスリングなどを、トレーニングに採り入れてみるのも、一計ではないでしょうか。

身長のうえでの大型化は着々と進み、ひところに比べ、かなり〝国際的〞になった日本のハンドボール界ですが、身体の厚味、幅、腕の太さなどは、まだまだ外国勢に見劣りがします。

高校界、学生界などをみても、この傾向は強く、大きな課題です。

レスリング選手の上半身の見事な発達、低い姿勢から瞬時にタックルに飛び込む脚力、何をとってもハンドボールが上達するに必要な要素は、沢山あるような気がします。

シーズンオフのマンネリ化したトレーニング。何をもって脱皮の糸口とするか、シーズン最盛期の今から考える必要があるのではないでしょうか。

(室川正治)

プレス・ルーム ＜3＞

小山　敏昭
――共同通信社運動部―

■「中国問題」の解決を

中国問題と台湾問題――。いま世界のスポーツ界でこの問題ほど難しいものはあるまい。〝総本山〟国際オリンピック委員会（IOC）をはじめ、陸上、水泳、サッカー、バスケットボールなどの国際競技連盟（IF）もこの難問に頭をかかえている。中でもIOCは九月中旬L・キラニン会長がじきじきに中国を訪問して解決策をねらうと努力している。また陸連のボーレン会長、サッカーのアベランジェ会長らも積極的な動きを見せて、それぞれ必死に解決の〝糸口〟を捜している。もちろん国際ハンドボール連盟（IHF）も例外ではなく、この難問解決に苦慮しているしかし、他のIFに比べてかなり出遅れていることは事実だし、またもう一歩の踏み込みが足らないようだ。

今回第九回世界選手権（男子）のアジア予選の開催地に台湾が決定した。だがこの決定が出るまでにIHFは何度か態度を変え、日本でやるとかいうごたごたがあった。

またことし三月中旬にクウェートで開かれた第一回アジア選手権（男子）には日本、韓国、サウジアラビア、バーレーンなどアジアの大会としては最高の九カ国が参加したというのに、IHFはメンバーシップにない中国が加わったことで積極的な支援の姿勢を見せなかった。そればかりか台湾を入れた別の世界選手権のアジア予選をやるという手間のかかることをいい出した。

こうした出来事は全て中国、台湾問題に結びついてくるものだ。

現在スポーツの〝頭脳集団〟である西欧では『台湾除外』という中東地域やアフリカ諸国などの運動に対して『なにも規約違反を犯しているわけはないし、参加を希望している地域、国のメンバーシップを一方的に奪ってしまうのはおかしい』という意見が主流を占めている。

こうした考え方をすぐに改めさせて中国の加盟を認めることはそう簡単にはできないだろうし、また最近の〝中ソ紛争〟を見れば次のモスクワ・オリンピックまでに中国がIOCや他の多くのIFに復帰するとは思えない。

それはまた今後三年間、中国、台湾問題でごたごたが続くことを意味しているようでもある。

なんとかIHFにももう一歩突っ込んでこの問題の解決に積極的になって欲しいものだが、幸い日本にはIHFのアジア担当理事の渡辺和美氏(大崎電気社長)がおられる。日体協でも苦労しているところでもあり、渡辺氏の活躍に期待したいし、日本協会役員が近々訪中するとも伝えられているので成果を見守りたい。

■日本リーグ勢は国体に遠慮を

スポーツの秋、また〝スポーツの祭典〟国体のシーズンがやってきた。青森県で開かれる第三十二回みちのく国体は全国各地から約一万という選手たちが参加、普段から鍛えた技を競い合う。倹約、節約ムードといっても地元にとっては一生に〝一度〟の大行事、自然に熱が入って、国体自体衰退するどころか、年々拡大していくようなムードすらある。

ところでこの国体への参加資格についてひとつ提案がある。ハンドボールは各都府県の代表或いは主体となって日本リーグ勢が出場してくる。男子で例えれば愛知は大同特殊鋼、広島だと湧永薬品、女子でも茨城が日本ビクター、熊本は立石電機など…。各都府県としては天皇杯、皇后杯を目指して必死の得点争いをするのだから、最強メンバーを送り込んでくるのも十分に理解できる。

しかし国体がだれでも参加出来るように変化し始めた現在、ハンドボールも出来るなら、こうした日本リーグ勢は辞退して、他のメンバーにその〝座〟を譲ってやることは出来ないだろうか。晴れの全国大会に出られない選手たちにチャンスを与えられないものだろうか。もちろんしろうとにその〝座〟を譲れというわけではなく、各地の県や市や地域リーグの選手たちにだ。

現在、サッカー、バレーボールバスケットボールなどは日本リーグ勢が一応辞退し、他の人に譲っている。地方普及、しいては技術アップのためには日本リーグ勢の好プレーを見せることもいい発奮材料になることは事実だ。しかしいまのハンドボール界の発展ぶりを見れば、そろそろ日本リーグ勢の辞退が考えられてもいい時期ではないだろうか。

日本リーグ勢には国体以外にも全日本総合、実業団、教職員大会など多くの出場チャンスがある。ひとつぐらい減らしても『…冠王』という言葉の価値は薄らぐものでもないし、チームの強化、発展にマイナスになるものでもない。

それに私たち新聞記者にとっても目新しい選手たちはいい刺激になり、またいろいろな特技を持った変りだねも出てくる可能性もあって、書く機会も増えてこようというものだ。

この問題は協会の全国代議員会で大激論が行われたと聞くが、もう一度考えなおしてみてはどうか

地方の方々にはもっと大きな目をもってハンドボール界を見つめて欲しい。

男子は西軍、女子は東軍連勝

全日本学生選抜

第27回(女子第9回)全日本学生選抜東西対抗は9月15日二千近い観衆を集めた京都府立体育館で行なわれた。

男子は、西軍が立ちあがりからいちどもリードを許さぬ健闘で快勝、2年ぶり11度目の勝利を飾った。

女子は、はげしいせりあいの前半から、東軍が後半地力を発揮、2年連続7度目の勝ち星をあげた。

西軍、多彩な攻撃示す

★男子(東軍16勝11敗)

西　軍(東海・中関西・四国・九州) 21(13―8 / 8―9)17 東　軍(北海道・東北・関東・信越)

☆……両軍ともに、スタートはもう一つ気合いが乗っていなかったが、西軍は1分20秒木下の鮮やかなシュートで、がぜん活気づき、このあと最後まで、いちども東軍にリードを許さず、タイにもちこまれたのも1分52秒(1―1)、4分30秒(2―2)の序盤2回だけという完勝だった。

特に、前半は生駒(全日本)のパワー、後半は鈴木康のテクニックが一際光り、生駒がいちだんとその攻撃力に多彩さをつけ、いささかスター不在といわれた今年のゲームを引き立てたのが目立った。

また、GK松村の好守と、先制点の木下が要所でポイントをあげたのも勝利に貢献した。

☆……西軍がオールスターゲームらしく、主力が持てる力を存分に発揮したのに対し、東軍は攻撃面では、長野、勝地らの強引なプレーで、ともかくもわたりあったが組織力に欠けた。

とりわけディフェンスの詰めの甘さが、後半18分15―18と追いあげた場面でも、そのあと失点する拙さにつながった。

このところ、東西1年おきに勝利をあげているが、今年は西軍が大型の好選手と、小柄な巧選手をたくみにかみあわせ、合宿までした意気ごみの成果をみせて勝ちを握った。

この勢いが11月のインカレ(大阪)にもちこまれそうな気もするのだが……。

(松下信宏・全日本学連委員長)

東軍、巧く立ちなおる

★女子(東軍7勝2敗)

東　軍 13(7―6 / 6―2)8 西　軍

☆……立ちあがり東軍が速攻を決めて7分までに4点をあげ、一方的な展開になるかとみえたが、両軍もじわじわと追いあげ、15分すぎ木下の連続ゴールで5―5に追いついた。

勢いにのる西軍は22分木下がさらに逆転ゴールを決める活躍で場内をわかせたが、ここで、11分間無得点の東軍が目をさまし、23分森戸でタイ。24分森で再び先行。

このあたり、調子の波がいったりきたりする、不安定な今の女子学生界の試合ぶりをあらわした。

☆……後半も、東軍が巧く滑り出し、5分9―6と開き主導権を握った。

西軍は、ミスが目立ち、7分まで追加点がなく、この間に東軍を立ちなおらせた。

13分東軍が10―8からPTでリードを拡げたあとは、西軍に疲れがのぞき、やや一方的な展開となった。

東軍では川波のシャープなプレー、西軍では木下の手首の強さを活かした多彩なシュートの射ち分けが光った。

(松下)

得	【西　軍】		〔男〕	【東　軍】		得
0	松　村	(京都産大)	GK	安　田	(早稲田)	0
0	山　田	(大阪経大)	GK	大　畑	(日大)	0
4	生　駒	(京都産大)	FP	北　里	(早稲田)	2
2	北　野	(京都産大)	FP	武　井	(早稲田)	2
4	松　井	(京都産大)	FP	吉　見	(早稲田)	1
5	木　下	(大阪経大)	FP	筏	(早稲田)	1
1	堀　田	(同志社)	FP	新井田	(日大)	0
5	鈴木康	(名城)	FP	長　野	(中央)	6
0	島　中	(大阪体大)	FP	勝　地	(慶応)	3
0	長谷川	(近大)	FP	石　川	(早稲田)	0
0	安　藤	(名城)	FP	佐々木	(東北学院)	0
0	鈴木輝	(名城)	FP	池　村	(金沢大)	0
0	金　谷	(九州産大)	FP	辻　口	(北海道教大)	0
0	宮　脇	(西南学院)	FP	若　田	(筑波)	2
0	川　上	(山口大)	FP			
21	(1)		PT	(1)		17

(審・藤本 福井)

得	【東　軍】		〔女〕	【西　軍】		得
0	大　森	(日体)	GK	柴　田	(大阪体大)	0
0	横　田	(東女体)	GK	岡　本	(武庫川女)	0
3	藤　井	(日体)	FP	佐　野	(武庫川女)	1
1	森	(日体)	FP	中　津	(大阪体大)	0
0	坂　村	(日体)	FP	都　築	(中京)	1
3	森　戸	(筑波)	FP	福　島	(武庫川女)	0
2	甲　斐	(東女体)	FP	今　井	(武庫川女)	0
3	川　波	(東女体)	FP	木　下	(武庫川女)	4
0	寺　尾	(日体)	FP	福　田	(大阪体大)	1
1	源	(日体)	FP	豊　本	(中京)	0
0	矢　野	(日体)	FP	恒　川	(武庫川女)	0
			FP	秦	(京都教大)	0
			FP	榎　崎	(武庫川女)	1
			FP	西　山	(九州女短)	0
			FP	平　野	(九州女短)	0
13	(2)		PT	(1)		8

(審・本田 小西)

津山、舞鶴破り“高専の覇者”に

第4回全国高専選手権は8月26、27の両日（25日開会式）秋田県立体育館に、全国各ブロックの代表16校が参加してトーナメントで争われた。

緒戦で、前年優勝の一関（東北・岩手）が和歌山（近畿・和歌山）に敗れる波乱の幕あけとなり、新進の充実が目立つ大会になった。

決勝は津山（中国・岡山）×舞鶴（近畿・京都）の初顔合せから、津山が前半の優位を活かし初優勝した。

一関（前年優勝）、和歌山に屈す

▽1回戦

		前半	後半	延長		
和歌山（近畿・和歌山）	12	4—4	8—5		9	一関（東北・岩手）
鹿児島（九州・鹿児島）	17	8—3	9—5		8	沼津（東海北陸・静岡）
秋田（秋田）	17	8—5	9—4		9	釧路（北海道）
津山（中国・岡山）	16	8—6	8—5		11	長岡（関東信越・新潟）
育英（関東信越・東京）	19	8—4	11—5		9	有明（九州・福岡）
豊田（東海北陸・愛知）	14	7—5	3—5	1—1、1—0	11	宇部（中国・山口）
富山（東海北陸B地区・富山）	20	11—4	9—6		10	高知（四国・高知）
舞鶴（近畿・京都）	12	6—4	6—6		10	宮城（東北・宮城）

＜注＞高専選手権のブロック分けは、全国高専体育協会の基準にしたがうため、日本協会の分けかたとは異る。

○……後半10分7—6とせりあった和歌山×一関は、そのあと和歌山がチャンスを確実にものにしたのに対し、一関は追いつこうとする焦りから逸機、20分11—8と開き、和歌山は殊勲の一勝をあげた。

豊田×宇部は9—10とリードされた豊田がタイムアップ直前のPTを決め延長、宇部は延長前半、大西のゴールで再び先行したが、豊田はよく粘り、延長後半1分宮下、4分40秒岡田でみごとな逆転勝ち。

舞鶴×宮城も好試合。前半の劣勢を宮城は後半15分すぎから追いあげてはねのけ23分10—10としたしかし舞鶴はそのあと伊藤の連続ゴールで辛くも逃げ切った。

津山×長岡は互角の戦況から津山が前半なかばすぎ、寺谷の活躍で優位に立ち、後半も巧くポイントをあげて振り切った。

秋田×釧路は、後半開始直後、釧路がいいムードになって、あるいはと思わせたが、秋田は余裕があり、地元の声援に応えた。

▽準々決勝

		前半	後半		
鹿児島	20	9—8	11—2	10	和歌山
津山	28	13—3	15—4	7	秋田
育英	20	8—6	12—8	14	豊田
舞鶴	19	6—3	13—5	8	富山

○……和歌山はいきなり5—0とする好スタートだったが、鹿児島の反撃を簡単に許してしまい、20分7—5と形勢逆転、先行した鹿児島は後半一気にたたみかけた。

○……秋田に凡失が目立ち、そこを出足のよい津山がついて速攻、15分8—1と早くも大差。後半も津山の一方的な展開に終った。

○……豊田に食い下られていた育英は後半7分から3点連取で15—9としたのが大きかった。豊田もなんとか粘ろうとするが、終盤4本の連続PTを課せられ失点するなど追いこめなかった。

○……前半13分間両校音無しだったが、舞鶴攻撃陣がしだいにリズムをつかみ、PTを巧みに活かすなどあって後半5分8—3、主導権を握って一気に押し勝った。

▽準決勝

津山 12（5—6、7—4）10 鹿児島

	【鹿児】	得
GK	有馬	0
GK	立山	0
FP	黒岩	0
FP	浜田	1
FP	重久	1
FP	山崎	3
FP	八元	0
FP	椎原	0
FP	室屋	1
FP	森田	3
FP	重森	1

	【津山】	得
GK	片山	0
GK	田中	0
FP	藤原	1
FP	人見	3
FP	山下	1
FP	内田	0
FP	寺谷	0
FP	松永	0
FP	橋本	0
FP	檜原	5
FP	福田	0
FP	橋本	2

（審・高橋、鈴木）

12（1）PT（1）10

○……実力伯仲、なかなか見応えのある得点の奪い合いだった。

後半10分9—9とゆずらなかったが、そのあと速攻、フォーメーションプレーに優る津山が人見、橋本らで3点連取。

鹿児島も山崎を中心に反撃したものの、津山の守りが固く攻め崩せなかった。鹿児島は前半11分4—2のあと11分間追加点のなかったのが痛い。

舞鶴 19（7—5、12—6）11 育英

	【育英】	得
GK	山中島	0
GK	近藤	0
FP	西村	0
FP	村岡	2
FP	山口	0
FP	秋山	1
FP	小林	3
FP	森山	0
FP	三浦	0
FP	杉本	5
FP	伊藤	0
FP	一柳	0

	【舞鶴】	得
GK	友木	0
GK	長瀬	0
FP	杉若	5
FP	堀内	3
FP	沢崎	1
FP	若宮	3
FP	伊藤	7
FP	小泉	0
FP	藤原	0
FP	門尾	0
FP	中川	0
FP	山田	0

（審・進藤、斉藤）

19（2）PT（2）11

○……固さののぞいた前半から一転、後半は好テンポとなったが、特に舞鶴は身長差を活かして積極的に射ってでて、この策戦が奏効育英は後半5分6—8まで振り切られた。

▽決勝

津山 14（9—3、5—9）12 舞鶴

	【舞鶴】	得
GK	友木	0
GK	長瀬	0
FP	小泉	2
FP	伊藤	6
FP	若宮	1
FP	沢崎	2
FP	堀内	0
FP	杉若	0
FP	藤原	1
FP	門尾	0
FP	中川	0
FP	山田	0

	【津山】	得
GK	片山	0
GK	田中	0
FP	橋本	6
FP	福田	2
FP	藤原	1
FP	人見	3
FP	山下	0
FP	檜原	2
FP	内田	0
FP	寺谷	0
FP	松永	0
FP	橋木	0

（審・半田、高橋）

14（0）PT（1）12

○……後半、必死に追い上げた舞鶴だったが、津山の細かなパスワークと足の前に前半の差を縮めたにとどまった。

津山が前半にみせた速攻は鮮やかなもの。GK片山からのロングパスを受けた橋本が次々に6本もシュートを決めた。

これに対して舞鶴は長身を利したロングシュートとポストプレーの歯車が合わず単調な攻撃に終始してしまった。

後半、やっとエンジンのかかった舞鶴はFTから伊藤のジャンプシュートが決まりだしたうえ、杉若らの倒れこみシュートなどで追い上げを見せた。

しかしスタートのつまづきと疲れがたたって、得意のセットプレーを組みたてることができず惜敗した。（8月28日付・秋田魁（さきがけ）新報戦評）

JHAレフェリーコース（後期）報告

～安藤純光～

（日本協会審判担当常務理事）

若い、そして優秀な審判技術をもつレフェリーを養成することは目下の急務である。

将来ともレフェリーとして活躍しようとする意志をもつ若人の参加を求めて、レフェリーとしての必要な課程を教育し、優れた人材を得る目的で昨年度末から本年度にかけてスタートした。

前期は3月26、27、28日の3日間、そして後期を8月26、27、28、29日の4日間にわたって開催した。

参加申しこみは98名であったが前期出席者は77名、前後期を通しての出席者は57名であった。

当初予想した参加人員をはるかに越える参加者を得たことは、コースを主催する側にとって、たいへん力強く喜ばしいことであった

〔JHAレフェリーコース後期日程〕▽第1日（8月26日・日本体協503会議室）10時～ペーパーテスト、11時～競技の運営について、佐野和夫氏、13時～スポーツにおけるレフェリーのありかた、嶋田新太郎氏、14時30分～質疑応答岡前義春氏、佐野氏、16時～審判員規定　嶋田氏

▽第2日（27日・青山学院体育館）9時30分～実技研修（テスト）

▽第3日（28日・青山学院体育館）9時30分～実技研修（テスト）

▽第4日（29日・日本体協503会議室）10時～外国語の勉強の仕方、福岡孝行教授　13時～ペーパーテスト　14時15分閉講式

〔講義要旨〕

(1)　**競技の運営・佐野和夫氏**

競技を円滑に運営するためにレフェリーとして知っておかなければならない点について、競技規則71～72頁にある「競技の運営」を中心に講義がすすめられた。

(2)　**スポーツにおけるレフェリーのありかた・嶋田新太郎氏**

スポーツ一般におけるレフェリーの存在のしかたから講義が進められ、ハンドボール競技におけるレフェリーの責務について競技規則書64～66頁にある「審判に関する留意事項、一般的留意事項」を中心に種々具体的な例をあげて講義が行なわれた。

(3)　**質疑応答・岡前義春氏、佐野氏**

受講者には前期を終了した時点で、仮のライセンス(手張)が与えられ、後期までに5試合以上のレフェリーを経験してくることが義務づけられている。

その間に出合った問題点について質疑が行なわれた。主な質疑応答次のとおり。

Q　ストーリングを判定し、フリースローで再開するとき笛を吹く必要があるか。

A　他のフリースローと同ようである。位置を正したり、フリースローがなかなか行なわれない場合には笛を吹く。

Q　センターレフェリーからゴールレフェリーになる時、早くポジションにつくことに専念すべきか

A　できるだけ早くポジションにつくことが必要であるが、ボール及びプレイヤーから目をはなしてはならない。

Q　笛を吹く必要のないラインクロスの限界は、

A　ルール上では、ゴールエリアラインにFPが触れることはできないことになっている。

しかし、相手に影響を与えないものについては笛を吹かないことにもなっている(運用上)。

しかし、そのことによって利益を得たと判断した場合には、ラインクロスの判定をしなければならない。

使えば、より有利な位置を確保するためにラインを踏んで移動したような場合にはラインクロスを判定すべきである。

(4)　**公認審判員規定・嶋田氏**

日本ハンドボール協会公認審判員規定についての解説と審判委員会の組織についての説明が行なわれた。

(5)　**外国語の勉強の仕方・福岡孝行教授**

共通の基盤であるハンドボールを土台にして、これを外国語で表現してみることからはじめてみてはどうか。

最初は短かい文章やいい方で…そして目で読んだり、頭の中で考えたりするだけでなく、常に発声して読んだり、いったりすることが進歩につながる。自分のそばに、いつも外国語を「置いておく」ことが大切であるなど豊富なスポーツの経験や研究を通しての外国語の習得（身体で覚える）のしかたを、体験を通して講演された。

(6) ペーパーテスト

日程の一部を変更して後期のオリエンテーションの直後に〔問題A〕を、最終日に〔問題B〕を実施した。

それぞれ50問×2点で100点満点で採決した。

〔問題A〕は、平均59・7点で、最高82点、最低が20点であった。

〔問題B〕は平均81・9点で、最高94点、最低が62点であった。

〔問題A〕は予告なしに突然実施したので、その結果が点数にあらわれている。

なお、前期のテストを合計すると300点満点で、平均は220・7点で最高が270点、最低は163点であった

(7) 総括

まず、参加者の熱心な、そして真剣な研修態度を報告しなければならない。

将来ともにレフェリーとしてハンドボール競技に関与しようとする若者の参加を求めて、優秀なレフェリーを育成することを目指して実施されたのであるが、参加者の参加のしかた、受けとりかたに多少ずれがあったように思われる

このコースは単位制であり、単位を取得した者には、B級公認審判員の資格を与えることになっているが、参加の目的をB級の取得においている参加者が全部ではないが、かなりいたと思われる。

もちろん、判度上または過程としてB級、A級という資格の問題は当然出てくるが、このコースの目的は、あくまで「優秀な技術をもった若手レフェリーを育成する」ことにあるのである。

したがって、テストをし、審査をし、資格を与えることにその目的があるのではない。

前期、後期を終わって主催、運営した側にも、この点で反省しなければならない点がある。

多数の、そして熱心な参加者を得たことは、当事者として喜ばしいことであるにちがいないが（このようなことをいうとお叱りを受けるかもしれないが……）運営の面で、たいへん苦労をした。

目的とする「指導・育成」が不充分であったこと、ともするとB級審判員の審査の様相を呈したことは強く反省されなければならない点である。

これらの軌道修正と参加者に対する継続的な指導育成については1月に開催予定の審判委員会合同会議で充分に討議し、参加者に連絡する。

全期間出席者57名（内訳・教職員25、自衛官8、学生7、その他17）のうち、約20％の14名がB級の資格を得た。

全期間出席者の氏名は本誌5頁を参照

レフェリーコースに参加して

～室川正治～
（編集委員・受講者）

日本協会初の試みといわれる「JHAレフェリーコース」は前期の講習会では、受講者に対して、主催者側の動機づけの感じが強く比較的リラックスした気持で受講する事ができた。

ところが、後期の講習会では、八月二十六日午前九時三〇分受付け開始、十時には早速ペーパーテストと、今までにないやり方に驚ろかされた。

しかも、テストの出題要領が従来のものとは全く違い、ルールブックに記載されている語句を一字一字明確に覚えていなければ、正解を得られないという、非常に厳しいものであった。

審判員は、こんなことまで覚えておく必要があるのか、私は、この問題の出し方にかなりの疑問を抱いたのも事実である。（あまりできなかったせいもありますが）

しかし、テストの後、安藤審判委員長から『B級の審判資格を取得させるための講習会ではない。あくまで国際審判を育成するための講習会である。たまたま合格者にB級の資格を支えるだけのことである』との話があり、B級審判のことばかりちらついていた私は自分の意識の低さが、はずかしくなった。

今回の講習会が、今までのA・B級の講習会とは、異質なものであるとの前提にたった、主催者側の、セオリーを無視したような運営のしかたが、ここでようやく理解できた。

さて、審判実技の面でも、私個人にとっては、非常に厳しいものであった。

普段あまり批評を受ける機会のなかった私は、審査委員の先生方の遠慮会釈のないズバ、ズバッとの御指導には「ハイハイ」の連続で、改めて自分の審判技術の未熟さを認識するとともに、今まで審判ヅラをして笛を吹いてきたことが面はゆいばかり……。

二日間にわたり食事時間も、もどかしく、づっと審査をしていただいた先生方の熱意、またそれに応えての受講者の審判技。どの場面をとっても非常に迫力があり、こんな気持でいつまでも笛を吹きたいものだと、反省かたがた非常に勉強になった。

今後のこの企画の運営について

は問題点として、いろいろあることは、主催者側としても十分承知されていることと思うが、その一つに、なんといっても、外国語が合格者にとって問題になると思う

合格されたかたは、少なくとも自分で勉強する意志は、あると思うが、それをそのまま個人にまかせておいては、かなりの脱落者が出てくることは必至であろう。

したがって、主催者側による「外国語の研修会」あるいは「通信教育」などを実施し、国際審判を育てるとの前提にたった、甘やかしのない厳しいアフターケアを期待したい。

成果の現れは、早くて五年、あるいは十年後のことを考える時、このコースの開設は、大変な事業であると思う。

それだけに、是非、きめ細かな今後の指導が必要である。

私個人としては、もちろん合格を目指しているが、合否はともかくとして、あの実技の二日間、吹き出る汗、何とも形容しがたい緊張、何をとっても、実のある四日間の講習会であった。

ワング氏の講演会企画 日本協会は世界選手権アジア予選(10月・台湾)の帰途、日本に立ち寄るワングIHF技術委員長を囲むこん談会または講演会を10月下旬、東京で開くことを計画することになった。

全日本教職員選手権大会「研究発表会」報告

〜高橋　健夫〜

（全日本教職員連盟副理事長）

第20回全日本教職員選手権大会が、長野県更埴市で8月10日から開催されたが、これに先立ち8月9日、同所で「ハンドボール研究発表会」が開かれた。

これは、全日本教職員連盟が、教職にたづさわり、直接または間接にハンドボール指導にあたっている選手層を対象にして行なわれる大会が、他の選手権大会と異った特長をもちたいという意図から過去から継続してきている発表会であるが、今年は八十余名の参加者を得て、更埴市老人福祉センター講堂に於いて開かれたものである。

会は山田大会々長の挨拶のあと遠藤総務委員長の進行で行なわれた。

研究発表の題目と発表者は次のようになっている(発表順)。

「シュートの技術について」　茨城・大西武三

「ハンドボールのありかたについて」　埼玉・北井晴次

「ハンドボール選手の有酸素的パワー」　大阪・山崎　武

「ハンドボール競技におけるボールハンドリングの研究」　千葉・河村英明

「ハンドボール競技発展のための課題」　大阪・望月伸三郎

「ハンドボールにおけるクイックジャンプシュートの実験的研究」　東京・土井秀和

「小学生のハンドボール指導における一考察〜使用するボールの大きさについて〜」　愛知・角　紘昭

「ハンドボールの防御に関する実験的研究。予測とタイミングコントロールについて」　東京・平岡秀雄

各研究発表の要旨の概略を披歴すると、技術的な面で大西、平岡両氏は、個々の技術分析だけでなく、対人的な要素をとりいれ、心理的なかけひき、〝さそい〟といった実際のプレー、指導上にとりいれなければならない貴重なものであり、土井氏は、ジャンプシュートをハンドボールプレイヤーとサッカープレイヤーとの比較実験によって、クイックジャンプシュートの指導点の分析を行ない、河村氏はハンドリングの問題を、手長、手幅、握力、索引力の関係を2号ボールと3号ボールによる実験によって、技術の高度化とボールの大きさについて提起した。

また、体力的な面では、望月氏は、ナショナルメンバーにつながる選手の発掘を、体格のデーターから提示し、山崎氏はパワーをとりあげ、ハンドボール選手のトレーニングに指針をあたえた。

さらに、普及的な発表として北井氏は、現在のハンドボール競技指導の二面性(クラブ指導と授業指導)についての矛盾に対する提言を行ない、角氏は8㎜フィルムもあわせ、小学生に対してのボールの大さと技術の発展をとりあげ小学生に適したハンドボールを発表した。

以上のように、いずれも平素の貴重な体験からあらわれた問題をハンドボール発展のために、科学的にまとめられたもので、第20回の選手権大会にそえるにふさわしいものであったことを報告したい

ただ残念なことに時間的な制約から質疑の時間もとれず、討論もできずに終らなければならなかった。

発表者の時間的余裕の要求が今後に生かされれば、さらに有効なものとなろう。

発表者と熱心な聴取者に感謝して筆を擱く。

全国教員養成大学研修会報告

〜平岡秀雄〜

（日本協会普及指導委員）

昭和52年度全国教員養成大学々生研修会は、8月23日から26日まで東京オリンピック記念青少年スポーツセンターで3泊4日のスケジュールにより行なわれた。

この研修会も4回目となり、参加者165名を迎えて、今までの「技術研修クラス」に加えて、「指導法研修クラス」を開設し、新たな意欲で臨んだ。

当初、受講生数100名を予定していたのに対して、200名以上の参加希望者が殺到し、参加者集めに四苦八苦していた前回までの研修会とは異なり、嬉しい悲鳴をあげるほどだった。

しかし、今夏の異常気象により連日雨天つづき、165名がコート(体育館)3面にひしめき合う結果となった。ただ、的場益雄氏や男子ナショナルチーム・竹野奉昭監督の熱気あふれる講演に加えて、技術指導ではオリンピック選手の

木野実氏や全日本学生監督の大西武三氏（日本協会技術委員会委員長）ら豪華な顔ぶれによる熱心な指導により、気迫あふれる研修会となった。今回開設した指導法研修クラスは、第1回目のためか14名の参加者を得たに過ぎなかったが、水上一氏の指導に加えて、国際審判員の佐野和夫氏の審判法指導により、研修生も一応満足できる成果を得ることができた、と信じる。

夜のミーティングでは、映画会（全日本対ユーゴスラビア）や親ぼく会などにより、昼間のきびしい講習会とは違って、和気合々のうちに進めていくことができました。

本研修会では、今までの2倍以上の参加者を迎え、盛大に行なえることができた。これは、過去3回の研修会での努力が実を結び、研修会の意義が認められ始めたことを物語るものだと思う。

本研修会が、単に技術的な研修にとどまらず、人間形成の場としてより有意義な大会となるよう今後一層の努力をしてゆきたく思う

長野では国体役員研修会

来年にせまった長野国体に万全を期するため、長野県体協ならびに長野ハンドボール協会では9月11日、ハンドボール会場地の一つ更殖市で「大会競技役員養成研修会」を、日本協会競技委員長安藤純光常務理事（国体委員）を招いて行われた。

さらに9月10日更殖市民体育館11日戸倉町体育館においては「52年度優秀競技選手巡回指導講習会」が開かれ、いずれも100名をこす参加者があり盛況だった。

この巡回指導講習会は、本誌前号で伝えられたナショナルチームのコーチ、選手によるもので、一流レベルの持ち主の指導とともに同チームが、地方愛好者に溶けこむ意義もあり、更殖、戸倉両会場とも、講師にたずさわった竹野幸昭全日本監督ら4名は、汗だくになりながら〝指導〟と〝普及〟につとめていた。

（望月　豊）

IHF中央審判講習会報告 ①

安藤　純光

IHF（国際ハンドボール連盟）が2年毎に開催する競技規則とレフェリーの講習会は、去る8月15日から19日までデンマーク・コペンハーゲンの郊外にあるスポーツハウスにおいて開かれた。

コペンハーゲンの中心部から西方12㎞にあるスポーツのための施設を使っての講習会で、一帯は体育館、宿泊施設、レストラン、プール、グランド（ハンドボール場4面、サッカー場6面、陸上競技兼クリケット場1面）、ミーティングルームなどを備えたすばらしい施設である

宿泊室は個室と二人室がありいずれもシャワー、トイレット付きである。

参加者はIHFのRSK（Regel und Schiedsrichter Kommition）の委員。永いあいだミスターハンドボールとして、またRSK／IHFのボスとして采配をふるったエミール・ホルレ氏亡きあとを背負って立つカール・E・ワング委員長（ノルウェー）をはじめ、E・エリアス（スウェーデン）、H・ヘンゼル（東ドイツ）、J・グリンバーガス（ソ連）、そしてRSK／IHF指導員と各国審判委員会の責任者39名、さらに17日からはRSKが指名したレフェリー20ペア（40名）計79名であった。

ヨーロッパ以外からの参加は日本のほかクウェート、台湾、アメリカ、チュニジアであった。

レフェリーはヨーロッパ諸国からそれぞれ1ペアづつが出席した

講習会は、各国審判委員長が出席して行なわれる第一部と、16日夕に到着する指名されたレフェリーを加えて行なわれる第二部とに分けられている。

第一部は、8月15日9時からの開会式（ホスト国・デンマークの会長H・パウルセン氏の挨拶、RSK／IHFの委員長ワング氏の挨拶、全出席者の紹介）で幕をあけた。

講習会は、IHFが2年毎に発行する競技規則の改正点の伝達と討議、そして後半では指名レフェリーに対するテスト（基礎体力・審判技術・ペーパーテスト）などが主な内容であった。

テストは、指名を受けた20ペアのレフェリーが、すべてペアで受験し解答するという形式で行なわれ、その結果は講習会最終日の19日夜の夕食会の席上、1～20位までの成績順位と得点が発表されるという厳しいものであった。

この結果が、次の世界選手権大会に笛をもつことができるかどうかにつながるわけで、レフェリーは真剣な受験ぶりであったし、各国審判委員長も大変気を配っていた。

一九七三年のブルガスでの講習会を最後に、一九七五年シタルドでの講習会からその性格が変わり新しいシステムによる講習会――IHF-Zentral Schiedrichte rkurs――として開催されるようになっている。

IHFは、レフェリーを地域別に育成し、その中から優れたものを、このZentral Kurs（中央講習会）に集めて、レフェリーを選抜し、大会を運営することになっているのである。

先に開催された西ドイツのフライベルグのハンドボール・レフェリーコースは、この道を歩むものであり、日本からは光島磯雄、狩野幸介、大塚文雄の三氏が参加し、充分な成果をあげている。

今後の国際審判員は、この経路を経なければならない。

このためには、いまさら改めていうことではないが、英・独・仏語のいずれかをマスターすることが必要である。

JHAレフェリーコース（別掲）に参加の諸君！、桧舞台を目指して勉強せよ。

さて、講習会の内容については、引きつづき次号以降に報告する。（日本協会審判担当常務理事・競技委員長）

第2回 全国H.B少年団大会報告

～林　正　信～

（日本協会普及指導委小学部リーダー）

ハンドボールの輪を広げよう―

八月九日～十一日、岐阜県高山市国立乗鞍青年の家で第二回全国ハンドボール少年団大会が開催された。

岐阜県ハンドボール協会が主催し、全国のハンドボール協会に呼びかけ、行われたものである。

この大会には、岐阜県、愛知県三重県、兵庫県から、八少年団、一五八名の小学生、父兄、指導者が参加した。参加した児童、父兄の大部分は、一～二年前までは、ハンドボールという運動名すら聞いこともない者ばかりで、引率して来られた各地域のハンドボール指導者の方々の熱意には心をうたれた。

チームを能力別に分け、リーグ戦形式で思う存分試合をしたり、基礎技能修得のための合同練習を行った。また、最終日の夜には、手を伸ばすと届きそうな、満天の星空の下で、手と手を取り合って歌ったり、踊ったり、ハンドボール愛好者の友情を深めることができた。一五八名全員の持つトーチの友情の火は子供たちの生涯の思い出となることだろう。

本大会でのもう一つの大きな話題は、参加した小学生指導者の協議会が持たれ、「小学校高学年児童に適したボールの大きさ、重さ」についての協議がなされた。各少年団から、指導経験をもとにした資料が提出され、話し合った結果、小学校高学年児童に適したボールは、

・大きさ……公認2号ボールの大きさ（外周54㎝～56㎝）

・重　さ……文部省規格品小学校教育1号ドッジボール重さ（230g～250g）

がよい、という結論に達した。

当面は、0号ドッジボール（ゴム製）を本大会の試合球とする、ということになった。

昨年に引き続き、岐阜県ハンドボール協会の格別のお力添えにより大成功のうちに終わることができた。特に本大会運営のために、昨年以来献身的にご尽力くださっている同協会の岡田重博理事長、上妻忠失氏、中島康氏に心から感謝を申し上げたい。

岐阜県協会は、本大会のために少ない予算の中から三十万円をねん出していると聞く。

底辺拡大というハンドボール協会の最も大切な課題であるだけに日本協会、各県協会の物心両面にわたるご指導、ご援助をお願いしたいものである。

現在、全国に、小学生を対象にしたハンドボール少年団が二十八団体ある（52年7月岐阜県協会岡田重博氏調査）、と聞いている。

ハンドボールを通して、運動する楽しさやハンドボールの良さを多くの子供たちに知ってもらい、学童ハンドボールの輪を全国に広げたいものである。

本大会が、このようなねらいを着実に果たしつつあることを、全国ハンドボール関係者各位にご報告する次第である。

高山へ行って……

―大会に参加した児童の声①―

前中　武

8月9日、第2回全国ハンドボール少年団大会の日だ。

ぼくは、これが、はじめての試合だった。自信は全然なかった。

支所前から、7時47分の大阪（梅田）行きのバスで新大阪まで行って、新幹線で、名古屋まで行って、電車で高山まで行った。

高山市内の体育館で開会式があった。

バスで、国立乗鞍青年の家へ行くと、もう夕べのつどいが始まっていた。

夕べのつどいが終ると、食事のしかたや、入浴のしかたなどをおしえてもらい、一度、自分の部屋へ行ってみた。とてもよい所だった7時30分、交歓会があった。そこで、各地のハンドボールスクールのしょうかいがあった。

それから部屋にもどって、班別研修をしてベッドを作った。とても面白かった。

そして、ベッドにはいって消灯をまっていた。

朝、目がさめると、ちょっと寒くて、気持ちよかった。

まだ、起床時間ではないな、と思った。

清掃が終って、その次は、交流試合だった。足がガクガクしていた。

始めは、愛知県ハンドボール教室だった。次は豊橋ハンドボール教室だった。この二つの試合は負けた。あと一つの試合は、勝たなくては、と思っていた。最後は僕も点を入れた。32対2で勝った。「ホッ」とした。

昼からは、ハイキングに行った始めは、どこへ行くのだろうと思った。

歩き始めると、山を登ったおりたりばっかりだった。休みもあった。歩いていると、青年の家がチラッとみえた。もうあせびっしょりだった。太い道に出た。するとそこは、青年の家の後ろだった。

夜は、キャンプファイヤーがあり楽しみだった。キャンプファイヤーでは、ダンスや歌をうたったりした。とても楽しかった。ベッドにはいって、明日はもう帰るんだなあと思いながら、寝た。

朝、朝食の時にべんとうをもらった。朝のつどいでは、お別れのあいさつを平木君がした。

そしてまた、バスで高山駅まで行って、近くの小学校で練習をした。すごくしんどかった。そこでべんとうを食べた。

そして記念写真をとって、また高山駅へ行って電車に6時間ほど乗った。外はだんだん暗くなっていった。ねむたかった。

京都駅について、新大阪行きに乗りかえて、新大阪からは車に乗った。

ぼくは、太田さんの車だった。支所前につくと、ぼくは、中原君のお母さんの車に乗せてもらって家へ帰った。実の中へ入って、話しをした。とても、この2日間は面白かったと思う。来年も行けたら行きたいと思う。高山。ほんとうに、いい所だった。（兵庫県山口町少年ハンドボールスクール、小学校6年）

学生界秋の陣展望

北大追う室蘭工大 旭川教大

◆北海道（10月21日～23日・札幌）

ここ数年、上位チームに順位の変動がなく、北大、室蘭工大、旭川教大のランクが変わらない。今季もこの〝3強〟によって優勝が争われるものと思われる。

春季優勝の北大は、守備から攻撃のチームへと転換をはかり、得点力のアップを目指している。

室蘭工大は、スピードと破壊力にあふれた攻撃のチームで、ペースにのせると手がつけられないがディフェンスにやや不安がある。

旭川教大は、スピード、守備力で前二校にやや劣るが、7月に行なわれた地区大学体育大会で初めて北大を破り、意気あがっているだけに、健闘が期待される。

これらにつづく釧路教大、北見工大、道工大、小樽商大、北星大北海学園大は実力が均衡しており混戦模様。

しかも、来年度から2部制の採用が予定され、どのチームも1部残留を、当面の目標にしている。激戦は必至で、3強の一角を食おろとする意気もさかんだ。新加入の函館教大と東海大は、今回は力試しといったところ。（内川隆一・北海道学連委員長）

抜群の東北学院

◆東北（10月22～24日・盛岡）優勝候補の筆頭は3連覇を狙う東北学院だ。

佐々木を中心にこの地区では抜群の攻守を誇り、全日本学生でも上位進出を狙う。

春2位の仙台大、同3位の東北大、同4位の岩手大、地区大学体育大会で仙台大を破っている弘前大の4校が東北学院を追うが、興味はむしろ2位争い。

仙台大は、運動力も多く期待されるが、選手に若さがのぞく。

東北大は新チームで今季リーグに臨むだけに戦力は未知数。

岩手大は速攻を得意とするもの の、守備力に課題を残す。

弘前大は平均身長も高く、期待されるチーム。

この4校に紙一重の差で宮城教大、福島大、東北工大、山形大、北里大(岩手)、東北学院工学部がつづく。

宮城教大は夏休みに全国教育系大会（大阪）に出場するなど、例年以上の練習をつんでいるので期待がかかる。また、今季復帰した北里大の試合ぶりにも注目が集まろう。（加藤紳一）

男子、戦国時代の様相

◆関東（～10月22日・駒沢）男子1部は、これまでは4強のAグループとその他のBグループとはっきり分かれていたが、この春あたりから、どこがAなのか、Bなのか判らない状態。

そのなかで早稲田が、春はみごとな全勝優勝をはたしたが、秋は各校とも打倒・早稲田にかなり自信を抱いており、いっそう厳しい試合内容になろう。

特に筑波、日大、王座奪還に燃える中央の実力は、早稲田に優るとも劣らず、日体も、春の成績（7位）そのままに評価することはできない。充分、首位を争える戦力だ。また、法政の巻き返し、慶応のパワーも無気味なものがあるこれほど実力伯仲、予断を許さぬシーズンは、かつてなかったのではあるまいか。創部以来初の1部入りを果たした国士館がどこまで食いこんでくるかも見所で、まさに〝戦国時代〟といえる。

女子は、日体の連覇成るかに的がしぼられるが、尻上りに調子の出てくる筑波と最後に対戦するのはみもの。東女体の存在も忘れてならぬし、日女体大の春に見せた健闘ぶりも、再び注目されよう。（松下信宏・関東学連委員長）

京産大、一歩リード

◆関西（～10月23日・大阪、京都ほか）、男子1部は春季に宿願をはたした京都産大が今季も圧倒的な強さで優勝候補の筆頭。連勝記録をストップされた大阪体大がどこまで巻き返すか、その闘志に期待がかかる。

同志社、大阪経大、阪大、近大返り咲きの関大らはいずれも決め手にかけ、3～7位争いは混戦となろう。

2部は、抜群だった関大が昇格したため、もつれそうだが、安定した力をもつ神戸大有利か。ダークホースは大阪教大、3部は甲南を桃山学院、大阪市大が追う。4部はまったく予断を許さない。5部には、東海から滋賀大転籍して初登場する。

女子は前季同よう、武庫川女、大阪体大の争い。両校ともインカレ制覇を目指して猛練習をつんでおり、両校の対戦は熾烈をきわめたものとなろう。

成るか山口大連勝

◆中四国（10月29、30日・松山、11月5、6日・広島）

男子1部は、過去2シーズン連続して全勝優勝を飾ったチームが

ない例からみて、今季も実力伯仲激しい星のつぶしあいを予想。

わずかに、6月の西部日本選手権で、中四国勢から唯一校、ベストフォアへ勝ち進んだ山口大が有利とみられる。山口大は、身長があり、ロングシュートを中心にセット、速攻とも鍛えられている。

広島大、広大福山、愛媛大は一団で、山口大の連勝の前に立ちはだかる。修道は一歩遅れる。

2部は広島工大、松山商大がリード、新進・島根大（春季3部1位）の動きが注目される。3部は山口大工学部か。

女子は、春季圧倒勝ちした山口大が、岡山県短大、岡山大、広大福山らを今季もおさえそうだ。

立ち直ったか九産大

福岡　昨年まで有利に戦かってきた九州産大が、今年は全九州学生（5月）には勝ったものの、その後の西部日本学生、九州インカレなどは緒戦で敗退しており、今季までに立ちなおっているかどうかが興味。

西部日本学生優勝の福岡大、九州インカレ優勝の九州大、カムバックの態勢をととのえた西南学院らは、それぞれ自信と意欲に満ちた表情を浮かべる。かつてない激戦になりそう。

また、福岡教大も、伝統の粘りでダークホース的な存在。もつれてくると、優勝経験のある九州産大が、優位に立つとみられるが、個々の技術に秀れた福岡大との一戦が、優勝の行方にかかる大きなカギとなるのではないか。

女子は、初参加の九州女短大が強く、福岡大、福岡教大も試合運びで一歩をゆずる。

慶応、早稲田に11年ぶり

第25回早稲田×慶応定期戦は9月17日横浜日吉の慶大記念館で行われ、長い早慶戦史上でも、かつてない興奮と盛りあがりをみせた末、慶応が逆転勝ちした。慶応の勝利は11年ぶり。

通算成績は早稲田の15勝2引き分け8敗。OB戦は早、高校戦は14－4で慶応が勝った。

▽現役戦

慶応 25（14－11　11－13）24 早稲田

加藤元全日本学連会長逝く

元全日本学連会長、関学部長・加藤秀次郎氏（関西学院名誉教授）は、8月29日午前5時5分、急性心不全のため西宮市上甲東園2丁目8の8の自宅で逝去された。75才。

加藤氏は昭和4年、米オハイオ州オベリン大学英文科卒業、翌年から関西学院で教べんをとられ理事長、学院長、学院体育会々長などを歴任された。

関学ハンドボール部創設とともに同部々長となり、その縁で、昭和23年西宮における全日本学生連盟の本格的発足時に会長を引きうけられた。（注・戦前の全日本学連は関東学連が併称しており平沼亮三氏が会長を兼務。全国組織としての学連初代会長は加藤氏ということができる）。全日本学生王座決定戦（現在廃会）、全日本学生選抜東西対抗育ての親でもある。

加藤先生を偲ぶ

大阪協会々長・早大OB　小西　清海

加藤先生との初の出会いは第1回早関定期戦を始めた昭和21年12月22日にさかのぼる。

爾来31年有半、お世話になったのです。

過日、7月2日のこと。第31回早関定期戦が西宮で行なわれ、先生は熱心に両校の奮戦ぶりを観戦されていましたのに……。

学生界で創部以来の部長は、早大の故酒井賢治先生、関学の加藤先生だけと思われ、両先生は、毎年の定期戦で開会、閉会の辞をともどもに仲よく述べて下さったことが思い出されます。

加藤先生はこよなく部員を愛され、入試時に、また日頃の試験にもお力添えになり、ご自分の執筆された本を、OBにまで発刊毎に送られるなど、いつまでも師弟の情をもちつづけられていたのです。

早大関係者は、我らが敬愛した酒井部長先生の密葬の日に「これから稲門ハンドボール部を充実し現役を指導し、日本一になろう」と誓ったものですが、8月31日、加藤先生の密葬に参加させていただき、関学OB、現役諸兄の姿をみて、さぞかし同じ思いであったろうと推察いたしました。

加藤先生はキリストのもとに帰られたのですが、先生の残された足跡は偉大なものであり、いついつまでも後輩に受けつがれ、盟友関学の栄あらんことを祈りつつ追悼の辞といたします。加藤先生、安らかにお眠り下さい。

本誌編集委員・関学OB　深江幸次郎

八月二十九日、三重での男子ナショナルチームの合宿を見学して深夜帰宅、靴をぬぐ間もなく「加藤先生が、けさ早く、ご自宅で…」の悲報に接した。しばらく言葉が出なかった。何分かの間、突っ立ったままでいたのだろう。

（そんなはずはない。七月の早関戦でお元気だったし、ついこの間現役が二部に昇格、やっと一部へ返り咲きだね……とジョッキを手に長時間話しあったばかり。

昔話に花が咲き、一段と先生が若返られた印象を持ったのが事実だったのに…）――われに返ったときは、受話器を握っていた。「8月31日上甲東園教会で密葬、9月10日学院中央講堂で学院葬」関係者への連絡であった。

加藤先生が帰らぬ人となられた言葉にいい表わせない虚しさ…。

いまだ破られない関西学生リーグの優勝記録も加藤先生と共に在った。過去八度の全国制覇も常に加藤先生と共に達成して来た。そして斯界最古の伝統を持つ早関定期戦も加藤先生なくては考えられなかった。試合前、試合後のミィーティングでは、我等がイエス・加藤神父のお祈りがお定まりになっていた。

「現役諸君が雨中で練習しているのに、立って見ているだけの私が傘を使うわけにはいきません」――私の現役生活最後の合宿の時だった。今でも、耳から離れないこの言葉。そして、やさしそうな表情の中に見た『君達と一緒にプレイをしているんだよ』とでもいいたげな厳しい目指しもまぶたから離れない。

永遠の部長加藤先生のご冥福を祈り、私達は関西学院ハンドボール部の発展を期し、全力を尽くくことをご霊前に誓います。

ご承知のかたも多いと思うが，ヨーロッパ諸国のチャンピオンシップは，例外なくリーグ戦で，秋10月から6～8カ月がかりのロングラン。ポーランドのように10チーム4回総当り・総試合数180というスケールの大きいものもある。

このほかに一昨年から「ヨーロッパ・カップ・オブ・カップス」が設定されたため，各国とも一斉にカップ戦を始めている，

いわゆるトーナメント法式の全国大会で，勝者の格としては，チャンピオンシップ（リーグ）よりも落ちる。

ファンのほうもよくしたもので，例えば，西ドイツのリーグ戦（ブンデス・リガ）の決勝トーナメントは1万近い観客を集めているが，カップの決勝戦は2千にすぎない。

日本では，位置づけが逆で，カップ戦ともいうべき全日本総合選手権が，日本リーグより権威をもっている。

将来，日本リーグの勝者をナショナル・チャンピオンとすることを研究すべきだろう。

ソ連はチェスカ，ルーマニアはステアウア

金メダル国・ソ連の全国リーグは男女とも12チーム2回総当りをまず行ない，そのあと上位6カ国と下位6カ国に分かれて，さらに2回総当りを行うシステム。最終的に各チームの試合数は32となるわけで，男子はチェスカ・モスクワが27勝2分3敗でＭＡＩ・モスクワ，ブルウェストニク・トビリシらをおさえて優勝，女子はヨーロッパカップの女王スパルタク・キエフが，実に32戦31勝という驚異的な勝率で優勝を飾っている。唯一の黒星はＦＴＳバクにつけられたもの。

ルーマニアは12チーム3回総当りの結果，男子はヨーロッパチャンピオンのステアウア・ブカレストが33戦31勝1分1敗で王者の貫禄を示し，2位は26勝3分4敗のディナモ・ブカレスト。なお，チェスカ(ソ)，ステアウア(ル)とも両国協会が世界選手権至上を打ち出しているため，今季のヨーロッパカップには欠場の模様。

ユーゴは14チーム2回総当りで，名門パルチザン・ブジェロバルが18勝1分7敗で混戦を抜け出した。

3月，湧永薬品が手合わせしたメタロプラスチカ・シャバッツは5位，ベルグラード・レッドスターズは10位に終った。女子はラドニツキ・ベルグラード。

チェコは，相変らずデュクラ・プラハの天下がつづいているようで，来春日本遠征の決まりかけているスラビア・プラハは11勝2分9敗，12チーム中の7位。

助っ人で勝ったダンケルセン

西ドイツは，かつてない波乱のレースとなり，決勝トーナメントに勝ちあがったのは，北地区からＧＷ・ダンケルセンとＯＳＣ・ラインハウゼン，南地区からＴＶ・グロスバルスタットとＴＵＳ・ホフベイエルの4チーム

決勝は5月14日ドルトムントに7千近いファンを集めダンケルセンとグロスバルスタットの間で争われ，ダンケルセンがタイムアップ寸前に得たＰＴをノルウェーからの助っ人・アッセルソンが決めて6年ぶり2度目の優勝を遂げた。2位のグロスバルスタットは，今春1月，全日本学生がショートニングマッチながら対戦している

おなじみのＶｆＬ・グンメルスバッハは史上初の5連覇を狙っていたが北地区3位に終わった。このため，カップ戦では，目の色をかえて勝ち抜き優勝。わずかに面目を保った。女子リーグはアイントラクト・ミンデン。

フランスもなかなか激戦だったが，結局ＲＣ・ストラスブルグが優勝，イタリアは12チーム2回総当りの男子がデュイナ・トライエスト，9チーム2回総当りの女子がデル・トンゴ・ローマ。オーストリアは，湧永薬品が快勝しているＵＨＫ・クレムスが，15勝1分2敗でタイトルを握った。

東ドイツは，男女とも10チームリーグでスタート，2回戦のあとＡクラス5，Ｂクラス5に分かれるシステムを採っており，男子はＳＣ・マグデブルグ，女子がヨーロッパカップ・オブ・カップスの勝者ＴＳＶ・ベルリンの優勝で幕を閉じた。

このほか，ハンガリーは12チーム2回総当りの末，男子がホンブド，女子もバスサスと，ともにブダペストを本拠とする名門チームの快勝に終っている。スペインは絶好調のカルピサ・アリカンテ，スイスはチューリッヒ・グラスホッパーズ。名門のひしめく北欧はデンマークのリーグがＫＦＵＭ・フレデリシャ，カップがＫＦＵＭ・アーハス。スウェーデンはリーグがヘルバス・ストックホルム，カップがルギ・ルンド。イスラエルは今年もハポエル勢が強かった。

アラブ，アメリカ地域の動き活発

4月の第1回アジア選手権に参加したアラブ諸国は6月1日から10日間，バクダット（イラク）で，国際レフェリー講習会を開き，6カ国から40名の参加をみた。

講師にはＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）からＨ・ヘンゼル，Ｐ・ラウクフス両氏（ともに西ドイツ）が派遣された。

また，同時期，エチオピアでもレフェリー・コーチの国際講習会が開かれ，エジプト，ケニア，タンザニアなどから30名の参加者があった。

一方，アメリカ地域では，5月末メキシコで初のパンアメリカン・ハンドボール会議が開かれている。

アメリカ，カナダのほかアルゼンチン，ブラジル，メキシコ各国が出席したほか，チリ代表も姿を見せたと伝えられる。

この会議に引きつづいて開かれた技術講習会にはラテンアメリカ7カ国からスポーツ指導者が見学のため参加した。

ハンドボールは，“世界のスポーツ”として着実な歩みをつづけている，といえよう。

★☆★

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

☆★☆

ユーゴ,久々に活気を示す

例年どおり5月末から8月末まで本場・ヨーロッパはほとんど動きがない。

11人制ハンドボールも，わずかにスイスからその全国リーグの動きが伝わってくる程度。伝統の西ドイツも，今やアウトドアというのは，屋外での7人制を指すようになっている。

そのなかで，サマーシーズン唯一のビッグトーナメント「ユーゴスラビア・トロフイ」が，今年も男女とも強豪を集めて開かれた。

男子は，タシマイダン・カップとも呼ばれ，かつて一度，日本も参加したことがある。

今回は，5カ国6チームが出場，ユーゴ，ソ連，ハンガリーが激しい星のつぶしあいを演じた。

ユーゴは，第4日ポーランドに食い下られ苦しかったのだが，最終戦，優勝短距離のソ連に引き分け，辛くも1位となった。

しかし，このところやや低調だったユーゴにとって，この優勝は，自信復活につながりそう。5日間1万3千の観客も満足したようである。

来年の世界選手権（Aグループ）で，アジア大陸代表と予選同組になるポーランド，スウェーデンは5，6位に甘んじた。

ポーランドは，相変らず左腕クレンペル（192㎝）のワンマンチームのようで，この大会でも32ゴールを叩き出し，得点王になっている。

スウェーデンは，3月の世界選手権Bグループ優勝時のメンバーと，多少変っているようだが，ラスミューゼン，ハカンソン両新鋭の安定が目につく。

大会の成績は次のとおり。日本代表チームの参考に，ポーランド，スウェーデン両国主力の，この大会の通算得点もつけ加えておこう。

〔試合記録〕ポーランド―スウェーデン，17：16，ユーゴ―ユーゴB　36：23，ハンガリー―ソ連　25：22（15：7），ソ連―ポーランド　25：19，ユーゴ―スウェーデン　26：22，ハンガリー―ユーゴB　19：19，ソ連―スウェーデン24：16，ユーゴ―ハンガリー　21：18（10：9），ユーゴB―ポーランド　22：21，ハンガリー―スウェーデン　25：23，ソ連―ユーゴB　20：18，ポーランド―ユーゴ　18：18，ユーゴB―スウェーデン　16：16，ハンガリー―ポーランド　27：20，ユーゴ―ソ連　17：17（9：10）【順位】①ユーゴ3勝2分②ソ連・ハンガリー3勝1分1敗④ユーゴB1勝2分2敗⑤ポーランド1勝1分3敗⑥スウェーデン1分4敗

〔ポーランド主力とその得点〕クレンペル32，グミレク11，クレッカ10，ブルデビス9，ビシンガー8，ブロゾゾウスキー7，コジエル，ソコロウスキー各6，グオッツチ，ココト，トマスゼウスキー各1

〔スウェーデン主力とその得点〕ラスミューゼン21，ハカンソン16，アウグストソン，ジョンソン各9，エビンゲ，グスタフソン各6，フリック，アンデルソン各4，リベンダール，ワングブラット各4，コブリマ3，アブラハムソン1。

女子もユーゴ快勝，ソ連3位に

一方，女子の「第17回ユーゴスラビア・トロフィ」は6月14日から19日まで，ダニロフグラドで，モントリオール1位のソ連，同3位のハンガリーをメインゲストに，5カ国6チームで争われた。

連日30度を越す暑さのなかで大会は進められたが，ユーゴが地元の利を活かして全勝優勝を飾った。

スポーツライターと各国監督の投票による最優秀選手にスタノジェビッチ（ユーゴ），最優秀GKにはクリン（ユーゴ）が選ばれ，“得点王”は40ゴールのステルビンスキー（ハンガリー）だった。

なお，ハンガリーのGKとして公式国際試合出場168を数えた名手ブイドソンは，この大会の前“引退”，改めてヨーロッパ各国から，その巧技を惜しむ声が寄せられた。

〔試合記録〕ソ連―ユーゴB　21：17，ポーランド―オランダ　18：13，ユーゴ―ハンガリー　21：13（12：17）ソ連―ユーゴB　21：17，ポーランド―オランダ　18：13，ソ連―ポーランド　26：16，ハンガリー―オランダ　21：8，ユーゴ―ユーゴB　25：16，ユーゴ―ポーランド　27：15，ハンガリー―ユーゴB　23：12，ソ連―オランダ　21：15，ポーランド―ユーゴB　17：10，ユーゴ―オランダ　29：14，ハンガリー―ソ連　17：14，ユーゴ―ソ連　30：17，ハンガリー―ポーランド　27：25　オランダ―ユーゴB　13：8

【順位】①ユーゴ5戦全勝②ハンガリー4勝1敗③ソ連3勝2敗④ポーランド2勝3敗⑤オランダ1勝4敗⑥ユーゴB5敗

各国チャンピオンシップ終わる

いささか旧聞になるが，5月末に終りを告げた昨シーズンの各国のチャンピオンシップの結果をまとめておこう。

青森国体・ブロック予選決勝記録

◆北海道
▽成年男子（参加9）
有斗ク 32—21 千歳ク
▽同女子・選手選考試合
登別OG 10—5 湖陵・上磯
▽少年男子
函館有斗高 18—16 室蘭東高
▽同女子
函館女商 10—8 函館商高

◆東北
成年女子は岩手（全岩手）、福島（東北ムネカタ）、少年男子は岩手（全岩手）、福島（全福島）、同女子は秋田（大曲農高）、宮城（全宮城）が代表。記録は本誌31頁「東北ミニ国体」の項参照。

◆北信越
▽成年女子
石川（北国銀行）21—8 長野（富士通）
▽少年男子
富山（氷見高）21—11 長野（選抜）
▽同女子
石川（小松市女高）9—4 長野（小諸商高）

◆関東
▽成年女子
茨城（日本ビクター）14—5 埼玉（大崎電気）
▽少年男子
東京（高校選抜）18—11 神奈川（全神奈川）
▽同女子
千葉（昭和学院高）9—7 栃木（選抜）

◆東海
▽成年女子
愛知（ブラザー工業）11（延）10 三重（ジャスコ）
▽少年男子
愛知（選抜）22—9 岐阜（高校選抜）
▽同女子
愛知（選抜）10—7 三重（選抜）

◆近畿
▽成年女子
大阪（大和銀行）13—10 兵庫（全兵庫）
▽少年男子
和歌山（選抜）11—4 大阪（全大阪）
▽同女子
大阪（選抜）5—2 兵庫（選抜）

◆中国
▽成年女子
山口（徳山ク）12—6 広島（HFG）
▽少年男子
広島（山陽女高）7—3 山口（選抜）
▽同女子
山口（岩国工）17—14 岡山（倉敷工高）

◆四国
▽成年女子（決勝リーグ）
愛媛（MCHC）8—6 香川（三本松ク）
高知（高知ク）12—5 愛媛
高知 7—6 香川
【順位】①高知②愛媛③香川
▽少年男子
愛媛（新居浜工高）15—12 高知（幡多農高）
▽同女子
愛媛（新居浜商高）13—5 香川（高松南高）

◆九州
▽成年女子
熊本（立石電機）25—3 福岡
▽少年男子
福岡（県高校選抜）13—10 熊本（選抜）
▽同女子
熊本（選抜）11—7 大分（青山高）

◆成年男子・県決勝記録続報
▽岐阜（参加3）
二和家具 18—14 岐阜教員

ブロック中学大会（続報）

北海道（第6回）
◇8月3日◇札幌◇参加男5、女2
▽男子1回戦（1試合）
十勝清水 19（12−2 7−5）7 札幌信濃
▽同準決勝
釧路鳥取 34（16−2 18−2）4 札幌もみじ台
十勝清水 9（2−3 7−5）8 函館旭
▽同決勝
十勝清水 16（6−5 5−6 … 2−1 3−1）13 釧路鳥取
十勝清水中は初優勝。
▽女子決勝
釧路北 17（7−1 10−1）2 函館西

東北（第6回）
◇8月5日◇宮城二女高
▽男子準決勝
郡山一（福島）13—9 黒石野（岩手）
金成（宮城）14—13 野辺地（青森）
▽同決勝
郡山一 25（15−2 10−4）6 金成
▽女子準決勝
郡山一（福島）16—6 愛宕（宮城）
上杉山（宮城）13—3 上田（岩手）
▽同決勝
郡山一 19（6−1 13−0）1 上杉山

東海（第8回）
◇6月19日◇岐阜県民体育館
▽男子準決勝
加納（岐阜）16—2 三重選抜
汐路（愛知）18—7 清水五（静岡）
▽同決勝
汐路 13—8 加納
▽女子決勝
加納（岐阜）9—7 汐路（愛知）

北海道高校選抜が韓国遠征

高校（選抜）チーム初の単独海外遠征として注目されていた北海道高校男子選抜軍（高橋辰夫団長、石切山稔治監督ら役員7、選手14）による韓国との交流試合は、7月21日から23日までソウル市で行われた。

この遠征は、北海道協会が1年がかりで計画していたもので、全国高体連ハンドボール部の日韓高校交流とは別個の親善試合。

韓国側は韓国高校1位の高麗をはじめ、いずれも単独チーム。北海道選抜は、コンビネーションで韓国勢に一歩をゆずった。

▽第1戦（7月21日・ソウル・永東高校体育館）

高麗（韓国）33（19−7、14−1）8 北海道高校選抜

▽第2戦（7月22日・同）

麻浦（韓国）33（19−7、14−5）12 北海道高校選抜

▽第3戦＝最終戦（7月23日・同）

永東（韓国）26（11−14、15−5）19 北海道高校選抜

【北海道高校選抜軍】▽団長 高橋辰夫（北海道協会々長）▽団長秘書 棚橋卓樹▽監督 石切山稔治▽コーチ 新橋満、長谷川軍司▽トレーナー 岡田豊夫▽マネジャー 徳光清明▽選手・GK船岡人実（函館有斗、174㎝）、合屋裕二（札幌南、174㎝）・FP三浦力（函館有斗、181㎝）、笠原正憲（釧路湖陵、178㎝）、岡田充広（札幌丘珠、177㎝）、田中千加志（函館大谷、176㎝）、菅野秀俊（釧路工、176㎝）、渡辺智（室蘭東、176㎝）、伊藤孝一（室蘭清水丘、175㎝）、磯部享（札幌南、174㎝）、美馬隆（北見工、174㎝）加藤幸彦（旭川東、173㎝）、加藤慶仁（函館中部、172㎝）、三浦豊樹（札幌西、165㎝）

少年女子は大曲農高

東北総体

東北ミニ国体――第4回東北総合体育大会ハンドボール競技は8月20日から22日まで福島県・郡山高校グランドに4部門各6チームが参加して行われた。

第30回東北選手権を兼ねた注目の成年男女のうち、男子は地元・全福島が、準決勝で前年1位の青森ク、決勝で前年まで教員部門で活躍していた岩手教員クを破り初優勝した。福島代表の優勝は2年ぶり2度目。

女子は3チームづつ2組の予選リーグのあと各組1、2位で決勝リーグを争ったが、日本リーグ復帰を目指す東北ムネカタ（福島）がやはり強く6連勝を飾った。

少年(高校)男女は、青森国体出場権をめぐって激戦となり、男子は全岩手が青森選抜、全福島と同率ながら得失点差で初優勝、女子は県予選で名門・和洋女を降した大曲農高（秋田）が余勢をかって快勝、初の栄冠を手にした。

総合得点争いは成年2冠の福島が文句のない4連勝、岩手が初めて2位に食いこみ、3年連続2位の秋田は4位に落ちた。

▽成年男子1回戦（2試合）

全福島 22−14 全宮城

岩手教員ク 17−15 湯沢ク（秋田）

▽同準決勝

全福島 24（15−5、9−9）14 青森ク（青森）

岩手教員ク 19（8−10、11−5）15 山形ク（山形）

▽同決勝

全福島 23（14−8、9−5）13 岩手教員ク

▽同女子予選リーグA組

全岩手 10−4 あすなろク（青森）

あすなろク 27−5 全和洋（秋田）

全岩手 19−1 全和洋

▽同B組

東北ムネカタ（福島）21−2 全宮城

全宮城 16−3 米沢女子OG（山形）

東北ムネカタ 21−9 米沢女子OG

▽同決勝リーグ

全岩手 17（7−2、10−2）4 全宮城

東北ムネカタ 19（9−3、10−3）6 あすなろク

東北ムネカタ 16（7−5、9−2）7 全岩手

あすなろク 13（6−4、7−2）6 全宮城

東北ムネカタ×全宮城、全岩手×あすなろクは予選リーグの記録を適用。

【順位】①東北ムネカタ3戦全勝②全岩手2勝1敗③あすなろク1勝2敗④全宮城3敗

▽少年男子予選リーグA組

全福島 16−6 全山形

全岩手 24−7 全山形

全岩手 11−4 全福島

▽同B組

青森県選抜 9（分）9 大曲農高（秋田）

青森県選抜 11−8 全宮城

全宮城 14−10 大曲農高

▽同決勝リーグ

全岩手 11−6 全宮城

全福島 12−9 青森県選抜

青森県選抜 12−7 全岩手

全福島 14−7 全宮城

全岩手×全福島、全宮城×青森県選抜は予選リーグの記録を適用

【順位】①全岩手2勝1敗（得失点差7）②青森県選抜2勝1敗（5）③全福島2勝1敗（3）④全宮城3敗。

▽同女子予選リーグA組

全福島 11−7 青森県選抜

全宮城 14－9 青森県選抜
全福島 14－7 全宮城
▽同B組
大曲農高（秋田） 14－4 米沢女高（山形）
米沢女高 8－7 全岩手
大曲農高 11－7 全岩手
▽同決勝リーグ
全福島 17－12 米沢女高
大曲農高 7－6 全宮城
大曲農高 13－6 全福島
全宮城 13－7 米沢女高

全福島×全宮城、大曲農高×米沢女高は予選リーグの記録を適用

【順位】①大曲農高3戦全勝②全福島2勝1敗③全宮城1勝2敗④米沢女高3敗

台北の蓬来小学校来日

愛知小学生ハンドボール教室の招きで台湾台北市の学童チャンピオンチーム（男子）・台北蓬来国民小学校チームが来日、8月23日名古屋で3試合を行い、2勝1敗の成績だった。

蓬来国民小 15－6 愛知HB教室
蓬来国民小 19－14 陽明小ク
大高小ク 12－9 蓬来国民小

各地の記録

ブラザー激戦を握る

第29回東海選手権は8月27、28の両日静岡市民体育館に東海4県の予選勝者男女各4チームを集めて行われ、大同特殊鋼とブラザー工業の愛知勢が勝った。

男子は、予想どおり大同特殊鋼×本田技研鈴鹿（三重）の決勝となり、本田が巧く先行したが、大同は後半追いあげ逆転、2年連続4度目の優勝を遂げた。

女子の決勝・ブラザー工業×ジャスコ（三重）は、日本リーグ前期同勝ち点で首位に並ぶチームとあって、全国の注目を集めたが、まれにみる激戦の末、ブラザーが第2延長後半の1点を守って2年ぶり3度目の優勝を決めた。

この1勝が、10月9日開幕の日本リーグ後期にどのような影響を及ぼすか興味深い。

愛知勢の男女制覇は5年ぶり14度目。

▽男子1回戦（＝準決勝）
本田技研鈴鹿（三重） 30（14－11, 16－7）18 二和家具（岐阜）
大同特殊鋼（愛知） 36（18－7, 18－3）10 静岡教員（静岡）
▽同決勝
大同特殊鋼 18（10－7, 8－9）16 本田技研鈴鹿
▽女子1回戦（＝準決勝）
ブラザー工業（愛知） 15（8－3, 7－1）4 静岡城北ク（静岡）
ジャスコ（三重） 28（14－0, 14－2）2 三洋電機（岐阜）
▽同決勝
ブラザー工業 11（4－3, 3－4 … 2－1, 0－1 … 1－1, 1－0）10 ジャスコ

□**読者の皆さまへ**

小松原保彦
（編集委員長）

▽……昭和34年にハンドボール愛好のかたがたと日本協会との唯一のつながりとして創刊された機関誌〈ハンドボール〉も、今年で19年目、今月で157号を迎え、さらに、今夏から新しい体制をしいた編集委員一同が、より充実した機関誌をと、熱のこもった意見をとりかわし、編集に取り組んでおります。

特に、より多くの皆さんに親しまれる機関誌として内容味のあるそして読者のかたがたに充分満足していただけるものにしていきたいと考え、新鮮な寄稿者、幅広い企画を心がけています。

皆さんの意見、希望、自由投稿なども積極的にとりあげたいと思いますので、どしどし日本協会編集委員会あて、お送り下さい

すべてに新しさを求められつつある日本ハンドボール界にあって、機関誌〈ハンドボール〉もその例外ではありません。

写真の充実にも取り組みたいと思いますが、提供いただける場合は原則として白黒でお願いいたします。

―今月号の編集担当者
小松原保彦（編集委員長）
泉 正明（本部編集委員）
西村 孝雄（同）

八幡工、守山女が快勝

▼滋賀県民体育大会ハンドボール競技（8月・彦根東高）
▽高校男子準々決勝
彦根東 23－3 近江
彦根西 13－9 能登川
米原 13－4 安曇川
八幡工 25－12 高島
▽同準決勝
米原 17（延）14 彦根西
八幡工 23－10 彦根東
▽同決勝
八幡工 20（13－2, 7－9）11 米原
▽同女子準々決勝
守山女 6－4 能登川
大津商 10－3 愛知
安曇川 5－3 高島
彦根南 6－3 彦根東
▽同準決勝
守山女 15－4 大津商
彦根南 5－1 安曇川
▽同決勝
守山女 11（7－2, 9－4）6 彦根南